

令和4年度前期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
English for Academic Purposes I	<p>・進むスピードが速かった点に関して→2年生になると、英語へのモチベーションが下がるため、予習を中心として、少し早めに授業を展開したが、様子を見ながら適宜進めていくこととしたい。</p> <p>・教科書の内容をもう少し扱ってほしい点に関して→教科書を中心として授業を進めるようにしていきたい。 ・スラッシュリーディングに関して→英語の構造をきちんととらえるために課題として出していたが、今後は、検討していきたい。</p> <p>・zoomを使った併用授業に関して→コロナによる濃厚接触、自宅待機、発熱の学生を配慮しての活動として行っていたので、そのような状況の学生にはとてもよかったとコメントをもらっている。煩雑さ解消のために、チャット機能やその他の機能など様々な代替案を検討し、ICTをうまく使った未来型の授業を進めていきたいと思う。</p>
English Self-Expression III	<p>これは、必修のEnglish for Self-Expression (ESE) コースシリーズの最後のコースです。学生たちは、実際のコミュニケーションの状況で英語を話すスキルを練習できることを楽しんでいました。英語のプレゼンテーションをするために聴衆の前で話すことへの恐怖を克服する必要がある学生もいましたが、ほとんどの学生はコースを受講することで、ESE2のカジュアルな会話から、ESE3の英語プレゼンテーション能力の向上へと発展させることができました。</p> <p>本年度も新型コロナウイルス蔓延の状況下であったため、講義スケジュールの調整が必要な場合もありました。しかし、可能な限り対面の講義を続けて行いました。</p>
Practical English	<p>英語の学習法を自ら考え、自ら自分自身のための方法を練る。この過程を経験するだけでも英語を深く覗き込み英語を知ることができる。</p> <p>音楽と海外ドラマに興味が集まった。コミュニケーションツールとしての英語力は正確さではなく、多発信を通しての意見の公約数的伝達である。すなわち、文法に間違いがあっても良い。多くを話しその中から意味をすくい取ってもらう。人前で英語を間違えることは恥ずかしいことではない。これらの前提をよく知ってもらうよう、種々のメディアを通した授業展開を工夫をしたいと思う。今後の同種の講義においては、このマインドセットのもとで多読、多聴、多話、多書を指導していきたいと思う。</p>
Intercultural Communication	<p>生徒からのコメントはすべて肯定的なものでした。このクラスは常に生徒の英語力を向上させ、異文化間のコミュニケーションについて学ぶことを目的としています。決して簡単なクラスではありませんが、一生懸命に取り組んだ生徒には、たくさんの新しい情報と自分の英語に対する自信を与えてくれます。このクラスは今後行われることはありません。このクラスを担当できたことを光栄に思うとともに、このクラスに参加したすべての学生に感謝したい。</p>
コミュニティ・プランナー概論及び演習	<p>授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。</p> <p>【自由記載：良かった点】（抜粋）</p> <p>・ゲストスピーカーの方のお話を聞くことができたり、グループワークが多い講義だったのですごく新鮮で自分の意見を伝える力など様々な能力が身に付けられる講義でした。</p> <p>・授業でのワークや先生方のお話はどれも興味深くこの講義を取って良かったと実感しました。</p> <p>・グループワークが多く、実践的な内容が多かった点。</p> <p>→コミュニティ・プランナープログラムにおける、地域での実践活動の前段階として、実際に地域社会で活動している方々の講話や、実践的な手法に関する講義を設定した。そこから得られた知識だけでなく、ゲストスピーカーの姿勢や地域への想いを、コミュニティ・プランナー開講科目をはじめとした今後の学習活動や実践に活かしてほしい。来年度以降も実践者の講話を設定する。</p>
コンピューターリテラシー	<p>学生からの意見を踏まえて以下の改善をする。</p> <p>・タイプ練習は概ね好評であり、またコンピュータを利用するに当たり必須のスキルである。反復練習によってスキルは上昇し、いったんタイプがうまく打てるようになればしばらくPCに触らなくてもキーを思い出せるようになるので、今後も定期的に練習時間を設けることにする。</p> <p>・オフィスアプリケーションの利用は、初歩的な部分の説明に終始してしまい、実際のユースケースを調べた上で、必要な機能の紹介を行いたい。</p> <p>・PCを使った演習においてどうしても躓いてしまうケースがあるようであるが、今後何らかのフォローができるような仕組みを検討する必要がある。</p> <p>・Windowsベースでの講義であるため、Mac利用者には戸惑う部分があったかもしれない。こちらもフォローできるような仕組みを検討する。</p> <p>・難しすぎる、早すぎるというコメントと、簡単すぎる、遅すぎるというコメントの両方があった。両方を満足させることはできないが、学生さんの反応をよく見ながら授業を進めたい。</p> <p>・クラスによって内容が違うという苦情が散見された。しかしこれは誤解である。同じ教科書、同じシラバスに従っている。その先の教員の個性や学群の性質の違いは、むしろ無ければ困る。高校の授業と大学の授業との違いを説明する必要がある。</p>
English Gateway I	<p>1 クラス間によって課題内容、課題量ともに若干の差があった。→提出課題の内容と量については、クラス間に差が出ないよう情報を共有しなるべく統一したい。2 グループワークが同じメンバーになりがちだった。→毎回異なるメンバーでGWが出来るよう。適宜席替え等を促したい。3 扱った長文の全訳がほしい。→原則として全訳は渡さないの、授業中、教員の解説等で理解してほしい。把握が難しい構文や難解な表現が含まれる箇所については適宜プリントを配布する等で対処したい。</p>
English Self-Expression I	<p>各教員の授業内容や進め方を統一する必要があるため、改めて担当教員を集め、授業内容や進め方の確認を行いたい。</p> <p>授業マナーについては、すべての学生が平等に授業に参加できるような環境づくりを行う。遅刻・欠席については、全クラスで厳守し、記録している。</p> <p>特に、講義中に一部の学生が積極的に発言することで、他の学生にも勢いがつき、良いスパイラルが生まれると信じています。文法などを気にしすぎる必要はない、だからたくさん話す、間違えても恥ずかしくないということを刷り込んでいきたい。</p> <p>帰省や病気などで、1人の教師が授業を担当できない場合もあります。このような場合、その講師の代役を簡単に立てることができないため、生徒は後日の補講を待つ必要があります。</p>
中国語 I	<p>・課題の提出方法は具体的な指示を出します ・学生の理解を深めるために授業外の学習時間を増やす工夫もしていきたいです ・グループワークで各グループ班の参加状況を確認するようにします ・両クラスの学生人数のアンバランスを調整に工夫します ・中国語の勉強に対する意欲をアップさせるため、「加点制」を含めていろいろ工夫をし続けていきたいと思えます ・使用テキスト以外から（中国語の社会・文化）も様々な学習を取り入れ、学生にとってもっと満足度の高い授業にしていきたいと思えます ・授業方法に更に工夫をしながら、学生の皆さんが楽しく中国語力を向上できるような環境整備を実施していきたい・これからもわかりやすい指導を心がけていきたい。</p>

令和4年度前期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
韓国語Ⅰ	<p>【科目運営について】 今年度の韓国語Ⅰは、対面中心で実施され、後期の韓国語Ⅱも同様に対面中心の授業となる可能性が高い。しかし、コロナへの十分な感染対策の必要性は依然としてあり、通常の対面授業に比べ、引き続き制限が続くことが予想される。その制限の中でも、授業内容および指導の質が低下しないよう、説明の方法・資料の形・学生への配慮などについて、より学生の立場から工夫していく。また可能な限り、学生に自身の過失によらない不利益が生じないよう、注意・配慮を行う。</p> <p>【授業計画について】 授業計画および到達目標は、実際の授業において学生全体の理解状況を確認しつつ進められるよう設定する。その際、学生の集中力や興味が持続するよう、簡明瞭な説明を心掛け、適度なペースで進めるよう、十分に考慮しなければならない。また、教科書の記述だけにこだわらず、必要に応じて学生の理解を助けるべく、補助資料などを積極的に活用しつつ、補足・解説を加える。語学の勉強において、語彙・文法の理解は無論大事であるが、その背景にある言語文化の理解も大事であることから、日本語との対比およびそれに関わる歴史の紹介・説明も併行して行う。さらに、単なる知識の伝達という一方向のものではなく、学生自らが授業に対し興味を抱き、自然に溶け込んでいけるよう、常に改善していく必要がある。さらに、学生に対して、上からではなく、同じ目線から教員自ら常にフレンドリーかつ丁寧に学生に接し、時にはその場を和ませつつ、「真剣さの中にも遊び心のある授業」の実施を目指すことで、充実した授業に仕上げていくことを今後も目指していく。</p> <p>【事前・事後学修について】 事前学修用として次回の授業に関する「補助資料」、事後学修用としてその回の授業に関する質問・感想への回答の「コメントペーパーへの回答」の2種類の資料を毎週配信することで、学習内容への理解を助ける。なお、適切に課題を配布し、可能な限り学生1人1人への添削指導を行うことで、学生自らが問題点について正確に認識し、無事に正解にたどり着けるよう支援していく。</p>
スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	<p>By learning the culture and way of thinking of the people you want to interact with, the process of learning their language becomes easier and funnier. Using different resources (videos, audiovisual presentations, etc.), I will provide more information and place more emphasis on that area since it is a good opportunity for the students to deepen their understanding of different cultures. At this point, the students already have the fundamentals of the language. Based on them, in order to make the learning process easier and the pace of learning smoother, more time will be spent on reviewing learned materials and main topics so that the students can feel more confident of their Spanish level.</p>
憲法（食産）	<p>【良かった点についての自由記載】（抜粋） ・複雑なところも懇切丁寧に教えてくださったので、とてもわかりやすかったです。 ⇒憲法の初学者にとって解りやすい授業を心がけましたので、そのような評価を頂いて嬉しく思います。</p>
政治学概論（食産）	<p>結果を見ると、8項目で平均値を上回り、おおむね好評のようで、安心しました。毎回、授業終了時に学生のコメントを書いてもらい、次回授業においてそれに答える時間を設けています。これが好評のようです。そうした評価が自由記述にもありました。この方式を継続していきたいと思います。 そうした中で、「学生自身の授業目標到達度」が相対的に低い評価となっています。また、「授業時間外の学習時間」が平均以下です。学生の興味関心をかきたて、自ら色々調べるように促してきましたが、具体的な課題を出した方がいいのかもしれない。これから検討してみます。</p>
国際関係論	<p>【良かった点についての自由記載】（抜粋） ・ニュースを見るたびに国際法や国同士の在り方について考えるようになった。 ・この講義は本当にいろんな面で丁度良かったです。講義の内容と説明の仕方も分かりやすく、理解しやすかったです。レスポンスシートも適度な時間で出来るので、良かったです。 ・教員が熱意を持って授業をしていて、やる気が出た。履修して本当に良かった。 ・わかりやすいし、要点把握がしやすかった。現在の社会問題と共通しているので、考えさせられた授業だった。 ・国際関係について、講義を通して興味が深まった。 ⇒国際問題に関心を持ち、問題の本質を理解してもえるような授業を心がけましたので、そのような評価を頂いて嬉しく思います。</p>
社会と経済（食産）	<p>「社会と経済」においては、単位を取るために学ぶのではなく、講義を通じて社会や経済に関心を持ったり、新聞等で報道されている中身を理解できるようになってほしい思っている。 来年度も、講義内容に関連する新聞記事を配布したり、現実の問題との関係性を説明したりと、教科書の枠を超えて、社会や経済の仕組みに興味・関心を持ってもらえるように工夫したい。 以下、学生からのコメントです。 例題を用いて式の説明などをしていただいてとても分かりやすかったです。 必修でもいいくらい必要な現代社会についての知識を得られました。 計算の解説が多く、理解しやすかった。また最近のニュースなどが交えられていたのが良かった。 話の進め方、展開の仕方が興味がそそり、非常に面白い講義であった。 経済について学べたこと。 先生が練習問題を授業内で一緒に解いてくれたのが良かった</p>
社会と哲学	<p>哲学は「自由」が一番。なので、この授業も「自由」。この授業が「自由」であることを言祝いしてくれる学生さんがいることを知り、安心しました。積み残した分は、いつでも授業に応じますから、申し出てください。 この授業は「社会哲学」が中心ですが、哲学の他の分野にも可能な限り対応します。</p>

令和4年度前期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
人口学概論	<p>授業評価による自由記述では、概ね好意的な意見が多かった。今後の授業改善として以下の点を上げたい</p> <p>授業計画と内容</p> <p>1つの講義について特定のテーマについての解説やデータの紹介を行ったが、情報は随時更新されるので、データをアップデートする必要がある。</p> <p>講義で紹介したデータは基本的にインターネットで公開されているものであるため、ソースを提示することで、今後別の講義課題でも活用可能なようにする。</p> <p>海外のデータが少なく余り紹介できなかったのが、今後の検討課題としたい。</p> <p>講義資料</p> <p>講義で説明する資料は、インターネットで公開されているデータのほんの一部に過ぎない。もっと深く掘り下げることで新たなことが分かることもあるため、データのソースの掲載を心がける。</p> <p>データは常にアップデートが可能かもしれないので、その準備を行う。</p> <p>課題</p> <p>ほぼ毎回課題の提出を求めた。課題は基本的にその時間の講義内容を反映させてきたが、履修者が多く採点に苦労したため、内容について検討したい。ただ、課題についても「適切であった」旨の評価もあり、内容を吟味したい。</p> <p>説明</p> <p>講義内容が人口という身近なものであったので、興味を持ってくれた学生が多いのも好意的な評価が多い理由かもしれない。今後なるべく興味のあるようなトピックを加えつつ説明を行いたい。</p>
文化人類学概論	<ul style="list-style-type: none"> ・板書を中心に授業を行ったが、多くの学生には問題がなかったようだ。一方、板書には追加情報も書くことがあり、そのメリハリを明確にし、学生が授業内容を整理しやすいように心がける。 ・フィールドワークや難しい課題に関しては、グループ・ディスカッションを設けたことが、学生の知的刺激を誘発することにもつながり、今後も続けていきたい。 ・教員の研究を紹介することが、学生の興味を引き出すため、今後も続けていきたい。 ・来年度は、教科書を使用しながらも、学修到達目標は今年度同様にする。
生命科学	<p>授業評価アンケート、ありがとうございます。今後も充実した内容になるようプログラムを作ります。以下の皆さんからのコメントを転記します。</p> <p>【良かった点】（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのディスカッションを見ると、多くのことを知れるのでとても面白く、良かったです。 ・ディスカッションの課題で自分の興味の持ったことについて掘り下げたり、ほかの学生と意見交換をしたりするのがとても楽しく、意義のある課題だと感じました。この課題はほかの授業にはないとても魅力的な点だと思います。 ・単純に授業内容が非常に面白く、自分で更に調べてみたくなるような内容でした。 ・外部講師の方がきてくれたこと。 <p>【改善した方がよい点】（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも授業時間がぎりぎり資料の後半は全く説明されないことも多かったので、もう少し授業内で伝える範囲を減らすべきか、もしくは授業スピードを上げるなど、改善したほうが良いと思います。 <p>【その他】（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業後に毎回提出しなければならない課題がありましたが、自分で調べてまとめるのが非常に面白かったです。また、他の生徒が投稿したコメントも読むことができ、勉強になりました。 <p>（改善点）</p> <p>→内容を最後まで議論するために、授業の進め方を改善します。</p>
環境学概論（食産）	<p>昨年度と同様な講義を行ったにも拘らず、今年度は相対的に評価点が低かった。全体的に、理解度も高く、学生評価の大部分において高かった。このため、基本的な教育方法はそのまま継続する。</p> <p>ただし、事前事後学習時間が少ないことから、課題数を増やしたい。</p> <p>また、一部の学生のレスポンスカードの記載が極めて悪い状況にあったが後半の講義では改善された。内容について数名分を翌週の講義の初めに披露したが、好評であったので続けたい。</p>
地球と宇宙（食産）	<p>授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。</p> <p>【よかった点の自由記載】（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料が用意していただいたため、予習、復習しやすかった。内容も面白かった。 → 資料配付も引き続きおこない、授業コンテンツの改善も実施していきたいと思います。 ・地球や宇宙の状況を自分の力で考えて説明できるようになってきた。 → 本講義で学んだことの成果が出ているようで、講義をするものとしてもうれしいです。 ・授業の記録ビデオを残してくれたこと。テスト勉強しやすかった。 → 次年度以降も録画を残して、復習の機会を作ろうと思います。 <p>【改善したほうがよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容の量が相当多かった。 → もう少し内容を精査できないか、講義内容を改めて検討したいと思います。 ・プリントの文字が小さい。 → ボリュームの関係もありますが、できる限り見やすくなるような改変を検討したいと思います。 <p>【その他、意見、感想、要望など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

令和4年度前期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
数学概論	<p>■この授業に関して、良かった点（抜粋） ホワイトボードに書いたものが見えづらいことに配慮して、状況に応じて改善していた。／今までとは違う数学で楽しかった／深掘の深さがちょうどよかった。／先生の話が面白かった。／テキストが分かりやすかった／高校で学んだ事柄の根源を学べるような授業だったため、今まで曖昧だったことが学べ、非常に良い授業であったと感じる。／どうやって考えるのか、分かりやすくまとめようとしてくれるところ／論理が面白かった／字がキレイで見やすかった。後ろの席への配慮もあり受講しやすかった。</p> <p>■改善した方がよい点（抜粋） 教科書と説明の書き方が違手わかりづらかった／資料が少々難しかった。／マイク使った方が声が聞こえやすいと思います。／内容が難しいため、苦手な人にとっては少し進むペースが早かった／用いる記号について説明がなされていないものもあり、分かりにくかった。／正直、講義を聞くよりも教科書を読みこんだ方が分かりやすいと感じた。ただし、講義内で用いていた具体例は面白いと思う。</p> <p>学生からの意見（上記）は、本科目が今年度より実施形式を変更したこともあり、重視している。本年度より刷新した教科書への評価は悪くないものとする。改善点としては、教科書全体で使用する記号の説明などの更新は行う予定である。質的な改善も含めて教科書の更新作業に時間を取りたい。今年度からの「大講義室での板書」講義については、状況の改善に対応した部分への好意的な評価もあるが、具体的な改善についての言及も散見され、環境の改善を求める一方で、自身の教育スキルの更新で対応していく。</p>
物理概論	<p>日常生活の中での物理の焦点を当て、その原理などを定性的に解説し、自分でも説明できるように講義を進めたが、おおむね好評であった。新型コロナウイルス感染拡大の様子を見ながら、理解度の確認のためにアクティブラーニングの導入（再開）したい。改善点として、取り扱う内容の拡充を検討する。</p>
化学概論	<p>全体としては概ね計画通り授業展開を行うことができた。基本的に対面で授業を実施し、手書きの板書が主な方法となった。ただし、教室がメモリアルホールになったことから、会場が広すぎて、直接板書を見ることができず、ウェブカメラによる撮影を行った。機材操作等の作業や準備にも手間と取られ、内容に十分に集中できなかった部分もあった。次年度以降は会場の変更など対応したい。また、手書きによる実施のため、字が読みにくいなどの不具合もあったが、展開スピードについては、適度に保たれたようであった。わかりにくい内容については、繰り返し説明する、演習を通して定着を図るなどの工夫で対応した。</p> <p>当該科目については、大学入学前の履修状況に学生間で差があるため、次年度は、基本的な部分を中心に、わかり易い内容で授業を展開する。さらに、授業の中でも演習問題に取り組む時間を設けるなど、参加学生が自らの意志によって、学習に取り組み仕組みを導入する。</p>
生物概論	<p>この科目では、毎回確認テストを行います。確認テストは何回でも受けられますので、高校で生物を履修していない学生やたまたまその授業を休んだ学生でも、自分で復習ができるようになっています。復習を怠っていると他の学生と差がついてしまいますので注意して下さい。</p>
世界の歴史と文化	<p>グループ・ディスカッションは、良い方向に機能した。特に、教科書が大変難しいものではあるが、ディスカッションを通じて学びあい、解答を見出していたことが良かったが、来年度からは少し長い時間をかけ解説を行うことで、理解を深められるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の研究内容を授業で紹介することで、学生の世界の情勢に興味を引き出すことを続けたい。 ・遠隔授業の良し悪しも明確になってきている現在、必要に応じて遠隔授業も取り込み、効果的に授業を進めていきたい。
人と宗教	<p>知の習得には閾値というものがあり、それをクリアしなければ「●●を学んだ」とはいえません。ひとつのテーマに関して、この授業で提供した情報の水準は、質・量ともに最低水準であると思っています。将来、何かを独学する際の基準としてください。とまれ、どの大学・どの科目でも、この授業で配布した程度の資料は提供していますが、改善点として「資料が多い」ということを挙げるのは、宮城大学の学生さんだけです（学生さんの名誉のために、一方では、資料が多いことを歓迎する声があることも申し添えておきます）。レポートに関しては、宗教の構成要素に言及したはずですから、想像力と経験とで、それらを埋めればいだけのことです。その場合、やっていることは、ぬり絵でしかありませんが、これまで経験したことのない形式の試験でしょうから、難しく感じるむきもあるのでしょうか。</p>
心理学	<p>受講者が比較的多い授業のため、講堂という授業環境として良いとはいえない場所での授業だったので不便をかけたと思います。</p> <p>内容についてはかなり広範な領域の事象を扱っています。事象そのものは日常生活で見られるものですが、それに対して専門用語が出てくるので、なじみにくさを感じる学生もいたかもしれません。日常生活で見られる事象を扱っているのに、日常生活と照らし合わせて考えてもらうとわかりやすいと思います。</p> <p>レスポンスシートの質問に対する返答が少し冷たいという声があったので、配慮したいと思います。ただ、設定の仕方に問題があるような質問については、設定のまずさ（問題）を理解して欲しいためそれを指摘せざるを得ないので、質問を否定するような印象を与えたかもしれません。いずれにせよ改善する必要があります。</p>
健康科学	<p>自由記述の主なものは以下のとおりであった。</p> <p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これぞ学びたい内容だ！と感じられる講義だった。本当に履修して良かった。 ・健康について様々な分野から学ぶことができ、幅広い知識を得ることができた。 ・生きていく上で知っておくべき知識をわかりやすくあしえていただけているため、履修して良かったと思える授業であった。 ・講師が3人での交代制で、刺激的だった点。講義する講師が3人いて飽きなかった。 ・資料が完結的で見やすかったです。 ・授業の合間にリフレッシュ目的の休憩があったのがとても新鮮だった。こまめに休みが入ることで集中して取り組むことができた。 ・先生ごとにテストをしたことが良かったと思う。分野ごとに学習することで、確実に知識を定着させることができた。 ・様々な角度から健康について学べた。 <p>改善したほうがよい点は回答がなかった。</p> <p>引き続き、各回の授業内容の教授・学習方法を点検し、必要な改善を行う。事前・事後学修については、担当教員単位でより具体的な教示や声かけを行う。</p>

令和4年度前期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
スポーツ実技	<p>授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。</p> <p>感染症や熱中症対策等のため制限される活動も多々ありましたが、みなさんのご協力のおかげでほぼシラバス通り（初回ガイダンスでの説明通り）に進めることができました。また、『良かった点』として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●面白く楽しかった。体と相談しながら取り組めるような声かけ。 ●無理をしすぎない新しい感覚の体育でした。スポーツに対する苦手意識が緩和されたと思います。 ●先生のお手本がすごくわかりやすく、楽しかったです。 ●評価基準をその都度、事細かに教えてくれること。 ●多くの人と仲良くなれる。 ●科学的な理論で説明してくれて、新たな視点でスポーツが出来ました。 <p>等、多くの意見をいただきました。競技スポーツが苦手でも、工夫次第で個人でもグループでも無理なく、楽しくエクササイズできることを多くの方に理解してもらえたようで嬉しく思います。授業は終了しましたが、今後も生活の中に定期的な運動を取り入れつつ、食事、睡眠などとの関連も踏まえた「今の自分に最適な健康づくり」に取り組んでみてください。</p> <p>『改善すべき点』についての記載はありませんでしたが、『その他』として、「もっと普通にスポーツがしたい」といった意見がありました。担当者としても一日でも早くそうなることを願いつつ、次年度以降もコロナの感染状況等を踏まえ、各自にとって安全で適した運動（強度、量）となるよう、相対的運動強度の調整法やルール等の工夫等に関する情報提供、現場での指示を充実強化させたいと考えています。</p>
体を動かす楽しみ（食産）	<p>授業評価アンケートへのご協力をありがとうございました。</p> <p>感染症＋熱中症対策、雨漏り対策等のために制限される活動も多々ありましたが、授業評価アンケートでは『良かった点』として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●丁寧な説明でわかりやすかった点 ●運動の強要はせず、自分から運動したり、休んだりできる環境があった。 ●学生に対して丁寧な対応をしてくださった。万全なコロナ対策、熱中症対策で安心して授業に参加することができた。運動神経ではなく、努力で評価されるというのが嬉しかった。 ●体を動かす楽しみが学べた。 <p>等の意見をいただきました。これらに加え、毎回提出してもらったレスポンスシートの内容や授業の様子等から、一定の満足度、学習成果等が得られたものと思われます。特に、遊び要素のあるレクリエーション活動（アクティビティ）を通じて、運動能力レベルや障がいの有無などにかかわらず、工夫次第で誰でも一緒に楽しめることを多くの方に実感してもらえたことは科目担当者として嬉しく思っています。本科目の終了後も、運動の形式にとらわれず、オリジナルダンス・体操の振付等の経験を活かし、時には自分なりのアレンジを加えながら運動を習慣化し、積極的に健康づくりに取り組んでもらいたいと考えています。</p> <p>『改善すべき点』は特に記載されていませんでしたが、本科目の重要ポイントの一つであり、今後の健康づくり（運動）においても重要度が極めて高い運動要素（基礎的運動パターン）として“リズム（に合わせること）”があげられますので、ダンス等が苦手な方が少しでも楽しめるよう、次年度以降も様々なメニューを工夫していきたいと考えています。</p>
スポーツ科学	<p>本科目の『良かった点』として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●復習しながら学ぶことができたので、これまでの学びとつなげながら学ぶことができ、深い学びができた。 ●スポーツと健康について考えられて良かったです。自分の生活習慣を見直すきっかけにもなり、筋肉が衰えていくタイミングで習えて良かったと思いました。 <p>といった意見をいただき、また、『その他』として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分の経験も学びに役立てることができたので、納得できるところも多く、今後にも役立てることができると感じた。 <p>という意見もいただきました。授業がきっかけで健康づくりの意識が高まったり、個別指導（遠隔）を受けたりする方もおられ、科目担当者としてとても嬉しく思っています。</p> <p>『改善すべき点』についての記載はありませんでしたが、今期の評価項目は全体的に他科目の平均よりも低くなっていました。本科目は、シラバスの内容をベースに、レスポンスカードの内容等からみなさんの理解度を踏まえつつ、興味関心度の高い話題も柔軟に取り入れるようにしていますが、今期はこれまでで最も専門的な内容を展開できたことも影響しているものと考えています。この分野は次々と新しい理論や技術などが出てきますので、次年度以降はそれらを積極的に取り入れつつも、各受講生の理解度をより細かくチェックしながら講義内容に反映していきたいと考えています。</p>
福祉入門（食産）	<p>「福祉」とはなにか、なぜそのようなになったのか、現在の福祉とはなにか、の概略を説明する授業である。詳しい事項については、専門毎に勉強してほしいと思うが、ここ20年間に急激に「社会福祉」が増加し、社会全体の「福祉」像が大きく変わっている。今後も変わっていくだろうから、事柄も重要であるが、福祉の考え方をしっかり学べるようにしたい。</p>
食と社会	<p>今年度から新設された科目であるため、授業を担当する側としても準備には力を入れた科目であったが、履修した学生たちにとっても得るところがあったようで、こちらとしてもまずは一安心というところです。「話し合いの時間があって他人の意見を吸収できた。」「食と社会について周りの人達と共有できるところが良かったです。」という意見がありましたが、この点は授業の準備段階から重視していたことでもあり、今後とも力を入れていきたいと考えています。「授業後のレポートが多い。」という意見がありました。これは授業後の振り返りのことを言っていると思いますが、400字程度を目安に意見等を書いてもらう課題と、あとは感想と質問（回答は任意）ですので、多くはありません。大学での勉強は高校での勉強とは違うことを理解してください。なお、今年度は初めての授業でしたので資料の準備に手間取りましたが、来年度からはもう少し時間的余裕をもって資料を配布できると思います。</p>

令和4年前期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
保健行動科学	<p>自由記述の主なものは以下のとおりであった。</p> <p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の要点が明瞭で分かりやすかった点。また、体験型学習を通してより実践的に学習が出来た点。 <p>引き続き、各回の授業内容の教授・学習方法を点検し、必要な改善を行う。</p>
保健医療福祉行政論	<p>保健医療福祉行政論は、保健師教育課程の必須科目のため、ほぼ、保健師国家試験受験資格を目指す皆さんが履修されていたと思います。看護師の養成課程と同様に、保健師の養成課程は、今年度から新たなカリキュラムがスタートし、今後は、ますます保健医療福祉の知識が、求められる方向です。行政のしくみや、法制度を理解する必要があり、知識として定着する学習が期待されています。授業評価の自由記載では、回答が二分しており、異なる意見が挙げられていました。</p> <p>保健医療福祉に関わる法制度は、皆さんにとっては、大学で学ぶ新たな知識になると思います。新たな知識は、やはりある程度、理解するまでの学習時間を要します。日々の積み重ねの、繰り返しの学習が大事になってきますので、非常勤講師と相談しながら、皆さんがより、自己学習に取り組めるような、事前・事後学習の提示方法や、教科書の活用についての周知方法の見直しを行っていきたいと思います。</p>
病態学	<p>事後小テストよりも事後レポートの方が学習が身につけているように感じた。</p> <p>レポートより小テストの方が勉強になります。</p> <p>回答：本音から言えば、レポートより小テストをしようかと考えています。もちろん、真摯に取り組む学生は、教科書などを読みながら要約し筋道立てて説明する練習にはなるのですが。理由は下記になります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 レポートの場合非常に似たレポートが一部にあります。WebClassではレポートの類似率を表示することができ、調べた同じ箇所を書いたからだけでは説明できないものも一部にあります（今はスルーしていますが）。 2 レポートの結果、実際身につけているのか客観的にわからない。特にコピーするだけで終わり、身につけているのか不安があります（以前は少なくとも手書き提出でした）。レポート後にテストをすれば合格ラインに達しているのでしょうか？ 3 レポートは講義の極一部なので、他が蔑ろになる可能性があります。
疾病論Ⅰ	<p>学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、遠隔授業、対面授業に関わらず、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っております。</p>
疾病論Ⅱ	<p>学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、遠隔授業、対面授業に関わらず、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っております。</p>
リハビリテーション学	<p>すべての項目について宮城大学の平均値よりも高く、臨地のゲスト講師の講義を多く取り入れた実践的な学習が積み重なり、学生の皆さんの満足度も学習到達度も高かったと考えている。時間割配置を本年度より変更したことから、課題への取組成果も非常に高かったと評価している。</p> <p>本年度は、4年生と3年生の混合クラスとなった。各学年のレディネスは違いながらも、事例検討は混合グループも構成し、互いに良い刺激になったことが、「参考になった」や「面白かった」という感想につながっている。また、時間割の都合上履修出来ない学生のために、ライブ講義、対面講義を録画・録音し、オンデマンドで学習する工夫を行ったが、齊藤の録画の失念や質の悪さがあり、その点改善点のご意見をいただいた。お詫びすると共に、スケジュール調整を次年度行う。</p>
ライフステージ看護学概論Ⅱ	<p>ライフステージ看護学概論Ⅱは、様々なライフステージにおけるリプロダクション機能と精神機能の課題と援助について学ぶ科目でした。当科目では、ほぼ全ての項目について全授業の平均値を上回っており、皆さんが関心をもって当科目に取り組んだことが見て取れました。特に「難易・進度の適切性」「授業の要点・内容の整理」は、全科目の平均値を大きく超える高得点が得られました。皆さんが授業内容について要点を押さえながら無理のない進捗で理解を深められたことを嬉しく思います。そのことは、自由記載欄の「講義資料や授業内容が分かりやすかった」「とても分かりやすく興味深い講義」というコメントからも窺えます。また、「先生の話は一切飽きなかった。毎回興味をそそられた」「もっと看護学生だけでなく、いろんな人に聞いてほしい」といった意見からは、授業の形式面だけでなく内容にも強く関心を抱くことができたことが分かり、とても嬉しく思います。さらに、「授業前にレスポンスの内容を紹介していたことで、他の人の意見を知ることが出来て、学びになった」「みんなが授業でどのように感じて学んでいたのかがよくわかったし、自分にとっても授業をよく理解しようというモチベーションになった」との感想から、レスポンスカードの活用が効果的だったことが窺えました。以上のように、概ね本科目の目標・目的が達成される授業内容だったと考えられることから、次年度も今年度の内容を踏襲して進めて参りたいと思います。</p> <p>一方で、「授業マナー遵守への配慮」「授業外の学習時間」の項目が他の項目に比べて相対的に低かったです。皆さんが講義にできるだけ集中できるように学生の授業マナーに配慮したり、授業外にも取り組める自己課題を検討することが大切であると考えました。今後はそのように工夫して授業を展開していきたいと思っております。</p>
看護学研究法	<p>本年度から、研究力、探究心の向上が求められる中で、担当者も授業計画も変更した科目である。学生の皆さんにとっては、研究に関する授業は初めてであり、かつ、基礎となる授業は1,2年次のものであるが、卒業研究を控えた研究に関する基本的な知識を学ぶ授業である。授業の中やレスポンスカードでも皆さんの理解度を確認しながら行っていたが、総合評価の結果は、難易度が高かった等、全平均値よりも低い評価となった。ただ、分布や意見を確認すると、難易度が高く到達度も低いと感じながらも、授業内容は「スライドが分かりやすい」や目標到達できる内容であるという評価もあり、回答者の評価のばらつきも非常に大きかった。看護における研究は、多分野で専門的であることから、学生自身の得意・不得意さによる理解の差も大きい授業内容であることは承知している。そのため、担当教員の専門性を活かした組み立て形式をとり、レスポンスカードで学生の理解度や、意見・感想をふまえた授業改善や補足は適宜行っている。また、事前課題として該当ページを明示し、読んでくることを課していたが、授業中に確認しても、あまり取り組む時間を作れなかった学生が多かったように見受けられる。最後に、事後課題にも戸惑いの意見があった。基本的に授業中に説明した要点を課題にし、資料には意図的に載せず、口頭で説明していることもある。文字数制限に苦しんだ意見もあったため、次年度再検討する。以上より、授業到達目標として下げることはできない科目であるが、皆さんに分かりやすい授業内容や進め方を工夫したい。</p>

令和4年前期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
国際比較看護論	履修者全員が、学修の到達目標に達することが出来たために、次年度も継続して文化に配慮したケアや国際看護に関する学びを積み重ねることが出来るように計画・実施していく。
救急・災害看護論	<p>本科目の回答平均値は、大学全講義の平均値に比べると、全項目で上回る結果となった。昨年度の検証をもとに、担当教員の説明方法について見直しを行い、学生にとってわかりやすく、かつ、適切な表現での講義を目指した。その結果、昨年度に比べて「要点明確・内容整理」は向上が見られた。他項目と比較すると「難易・進度の適切性」が低値であったが、アンケート結果を確認すると「実際に現場で働いている看護師の方がどのような視点で急患対応を行っているのかを知ることができ、とても勉強になりました。」との意見があった。外部ゲスト講師の講義内容が好評であり、4年次の国家試験を控えた学生たちにとって適切な難易度で臨床現場の実際に即した救急看護・救急医療を学ぶことができたと考えられる。</p> <p>心肺蘇生演習は、例年と同様に、高機能シミュレータ人形を用いて、心臓圧迫・人工呼吸の程度をモニター上に可視化させながら演習を行った。また、トリアージ演習は実際のトリアージシートを用いて行った。アンケート結果からも演習での取り組みが効果的であったことが伺える。</p> <p>一方で、改善してほしい点には講義資料の読みにくさや要点の不明瞭さが指摘されていた。講義スライドの見直しを行い、要点を明確化すること、余計な文字の削除などを検討していく。また、中間テストの位置づけについて、疑問の声が寄せられていたので、初回のガイダンスや中間テスト前の講義時に、中間テストの必要性について説明を加えていくこととする。</p>
実践看護英語演習	オンライン海外研修への参加では、オーストラリアの講師との直接的なやり取りをしなくてはならず、ネイティブスピーカーとの英語でのコミュニケーションに最初は難しさを感じたと思いますが、後半は、積極的に発言したり、楽しく学ぶことが出来たと思います。海外研修中だけでなく、学内学習においても、国際的な雰囲気を出せるだけ維持できるようにしていこうと思います。また、履修者全員が、到達目標に達することができたと感じられるように、授業の改善を行っていきます。
看護援助技術論Ⅱ	<p>本科目の授業評価は「授業マナー遵守への配慮」「知識、技術等役立、関心」「目標到達できる内容」「授業外の学習時間」では全授業平均より上回った結果であったが、その他の項目については全授業平均より低い結果であった。授業計画の後半には、事例を用いた臨床推論や酸素療法を受ける患者へのアセスメント・援助など、実際の事例を想定した学習内容に切り替わったため、学生のみなさんにとっては難易度がやや高く感じ、授業目標到達もわずかに全授業平均よりも低い評価となったのかもしれない。なかでも「授業計画のわかりやすさ」については、回答の幅が大きいものの、全授業平均より3ポイントほど低い結果であった。同時並行する「看護援助技術論Ⅲ」の科目と組み合わせた時間割としていることから、初回授業時にオリエンテーションしていたが、十分な理解を得ることができない場合もあったようだ。演習の単元を3クラス展開で進めたためやや複雑であったと思われるが、この点については説明時期や内容・頻度、方法等を検討して改善していきたいと思う。</p> <p>一方で、自由記述のコメントからは、本年度から導入した授業における小テストについて「小テストを行うことで予習が身につくように学習することができた」「小テストを各回にこまめに行うのが良いと思った。」「知識を学ぶことができた」などの皆さんの学習に貢献できたコメントがあった。これらはこちらのねらいにマッチしている内容であり、予習にしっかりと取り組むことで授業中の理解度も高まったと考える。この取り組みについては、テストの内容や頻度などをさらに検討し、皆さんの学習を促進できるよう今後も継続していく。</p> <p>その他、他の科目との学習内容発表のタイミングを調整してほしいという意見もあった。課題や時期について他の科目と細かく調整することは困難であるが、今年度のように発表に向けて取り組む時間を確保したり、学習内容の量・質を調整したりしていくことを検討する。本科目だけではなく全体的に課題等が重なる時期があることは「授業に関する情報の周知方法が分かりにくい」という意見にも関連するものと考えられるため、皆さんの学習が円滑に進むように、内容を整理し、余裕をもって適切に情報発信ができるように改善していく。また、学生の皆さんに提供する学習資料の記載等に誤りがないように、担当教員間で十分に確認し、提示していく。</p>
看護援助技術論Ⅲ	<p>「授業マナー遵守への配慮」「知識、技術等役立、関心」「教材と説明の適切さ」「目標到達できる内容」「授業の要点・内容の整理」「授業外の学習時間(hr)」では他の全授業と比べて平均値が上回った結果となりました。自由記述でも提示する講義・演習資料や教員の説明のわかりやすさ、講義・演習方法としてグループワークにより学びが深まった等、良いコメントをいただき、皆さんの学習理解がすすむように授業方法の工夫や指導体制を整えることができたと思います。一方で講義資料の誤字・脱字についてもご指摘がありましたが、皆さんの学習教材として提示する量その内容に誤りがないように教員間で確認の上、提示していくように努めていきます。</p> <p>「難易・進度の適切性」「授業計画のわかりやすさ」「学生自身の授業目標到達度」が全授業の平均値よりやや下回りました。初回の講義でオリエンテーションを行っておりますが、関連性が高い科目である看護援助技術論Ⅱとの連動をもたせて時間割を組んでいることや、講義（対面とオンデマンド配信）と演習（3クラス開講）といったように授業形態も様々になっていました。また、授業の課題の提示や連絡など、MoodleとTemasを併用していることで、授業計画やその進度が複雑でわかりにくい点もあったかと思えます。今後は、学生自身の授業目標の到達度が向上するように、授業全体の計画・進行をわかりやすくするために、講義・演習の運営方法をルール化する等、工夫していきます。さらに、予習が多い、事前事後学習の量が多い週があると意見をいただきましたが、提示している課題は必要な学習ですので、皆さんが計画的かつ学習時間を確保できるように余裕をもって提示していきます。</p>
母性看護援助論Ⅱ	<p>母性看護援助論Ⅱは、分娩期・産褥期・新生児期における母子と家族の健康課題と援助について学ぶ科目でした。当科目では、ほぼ全ての項目について全授業の平均値を大きく上回っており、皆さんが大変熱心に当科目に取り組んだことが見て取れました。特に「授業マナー遵守への配慮」「知識、技術等役立、関心」「教材と説明の適切さ」「授業の要点・内容の整理」は、全科目の平均値を大きく超える高得点が得られました。当科目が特に重きを置くDPは「知識・技術」ですので、ねらい通りに皆さんが学ぶことができたのではないかと嬉しく思います。自由記載欄には、「レジュメが毎回分かりやすかったので、試験勉強もしやすかった」「授業の内容も聞いていて分かりやすかった」「資料を見ると大切な点の分かりやすさ、実習に向けて活用していきたいと思いました」といった意見がみられ、資料や説明など授業方法が特に効果的な学びにつながっていたことが窺えます。</p> <p>また、後半3回の授業では演習（看護過程・褥婦の看護・新生児の看護）を行いました。これについても「実技を期末に持ってくることで、知識の復習をしながら行うことが出来た」「実習にむけて知識を実践して再度学ぶことができ、実習にむけて大切な時間を過ごすことができてよかった」との意見から、内容・時期ともに学習効果が高かったことが窺えました。さらに、「演習で先輩に教えてもらったり、実習の話をお聞きしたりするのがよかった」「コロナの影響で先輩との交流が全くないので、演習中に先輩と交流できたのは良い機会となった」との声もあり、4年生に演習TAを依頼することも大きな意義があったと感じます。以上のように、概ね本科目の目標・目的が達成される授業内容だったと考えられることから、次年度も今年度の内容を踏襲して進めて参ります。</p> <p>一方で、「授業外の学習時間」の項目が他の項目に比べてやや低かったです。授業外にも取り組める課題を検討することが必要であると考えました。今後工夫して授業を展開していきたいと思えます。</p>

令和4年前期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
小児看護援助論Ⅱ	この授業に関して、ご意見をいただきありがとうございました。 OSCEについて、自己練習する時間の不足や練習の環境などに対するご意見をいただきました。練習時間や環境の整備状況を改善し、みなさんの看護技術力を向上できるよう工夫していきます。
成人看護援助論Ⅰ	授業評価では、学生自身で目標を到達できた実感が低く、授業目標や内容についても関心が低い傾向にありました。 健康レベルが変化する人の特徴を理解し、成人看護の導入である科目です。成人期にある人の身体・心理・社会面を看護とつなげて検討し、学生が関心をもって積極的に授業に参加できることが必要と考えます。健康レベルが変化する事例検討において、事例の全体像を関連図で表すワークの充実を図ることで、健康レベルの変化に影響する、多様な人の反応について関心をもって取り組めるよう検討したいと思います。あわせて、各単元の構成について再検討します。
成人看護援助論Ⅱ	「講義中の事例の説明により、看護の大切なポイントがわかった」「講義後のレスポンスカードに答えていただけたことで改善点が明白になった」という意見があった。今後も、看護の対象となる人々の体験や状況を想定できるように、授業の展開を考慮すること、レスポンスカードに対する返答や授業の振り返りを行い、学生が主体的に学習できるように学習環境を整えていきたい。また、「講義資料について簡潔にまとめてある」との意見があった。疾患や術式に応じて必要となる看護技術や留意点などを講義内で提示しながら、周術期の看護について具体的にイメージができるよう、様々な教材を活用し、自己学習に繋がられるように学習を支援したい。「事例検討課題が学びとなった」という意見が数件あった。今後も各グループの学習状況および指導内容について各担当教員と共有を行い、全体共有の時間を設けながら、学習目標が到達できるようにする。 NL2での看護技術に関する自己学習では、学内実習中で学習できなかったとの意見があった。急遽学内実習となり、NL2の予約状況に変更が生じた経緯があるが、各教員間で連絡調整を行いながら、学生の不利益とならないように対応したい。
成人看護援助論Ⅲ	療養体験演習や講義を通して、本科目で重視している対象理解について学べたこと、後期に控えている臨地実習を意識し、教科書と実践をつなぐよう意図した授業内容に対して、肯定的な評価をいただいた。レスポンスカードを通して学生から寄せられる質問や学びに対する返信、講義資料に教科書該当ページを示したことについても好意的な意見をいただいた。 要改善点として、内容が豊富であった分まとめが欲しかったことや、資料の画質が粗く読みにくかったという意見があった。成人看護学の領域は各論の幅が広く、特に慢性期看護では、慢性病のさまざまな病いの経過における看護を教授している。そのため、授業時間に対して授業内容が多くなりがちであり、授業中に要点は示しているものの、その要点が多いために、学生に難しいと感じさせたものと考えられる。教科書の範囲を超えた実践や理論を盛り込んでいることに対する肯定的意見がある一方、難しいと感じている学生もいることから、要点の中でも重点を示すよう努めていきたい。講義資料については、PDF化の手順が教員によって異なっているために生じていると考えられるため、PDF化の手順を統一することで改善したい。さらに、試験内容に関して看護の内容が中心ではなかったのではないかと疑問をもった学生もいたようだが、慢性病者に必要な看護を実践するために必要な知識に、基盤となる疾患や治療に関する知識を包含することはシラバスに明示してある。学生が、その知識がどう看護につながるのかをより意識できるような授業構成になるよう努めたい。 本科目が学生にとって難しいという評価ではあるものの、本科目は成人看護学の対象論および援助論を教授する科目であり、本科目だけで完結せず、本科目での学びを臨地実習等で受持ち患者の理解や看護実践に活用し、つなげることで学びが深まり、学生自身のものになっていくものと考えている。
老年看護援助論Ⅰ	「授業の要点・内容の整理」「教材と説明の適切さ」が低く、毎回の授業目的の分かりづらさへの意見が見られた。 各単元での目標を学生が理解したうえで、事前課題や授業内のワークに取り組めるように事前課題の提示とセットで単元の学習目標を提示していくことや授業の前後で目標を学生とともに確認していくことで改善を目指す。また、個人ワーク、GWを取り入れた授業展開に慣れるまでは、ワークでのポイントや目指す内容を丁寧に示し説明していくことで円滑で有意義な科目運営となることを目指す。
老年看護援助論Ⅱ	本科目は本学において電子教科書の活用をいち早く取り入れており、授業資料は電子教科書を中心とし、重要な点や深堀が必要なことに対して、マーカーや付箋、スライドを教科書に張り付けての補足を行うスタイルであった。つまり、教科書にほぼすべての内容が組み込まれることで学生の利便性を目指していた。しかし、今回の評価では「授業の要点・内容の整理」「教材と説明の適切さ」が低く、教科書よりもPPT資料を希望する意見も一部みられた。電子教科書の活用はもちろんであるが、PPT資料も活用しながら、授業の要点・内容の整理の容易さを目指していきたい。また、個人ワーク、GWを取り入れた授業展開に慣れるまでは、ワークでのポイントや目指す内容を丁寧に示し説明していくことで円滑で有意義な科目運営となることを目指す。
精神看護援助論Ⅱ	授業へのご意見をありがとうございました。講義内容に対する改善を求める意見はなかったため、今後もこのような内容で組み立てていきたいと思います。 【よかった点についての自由記載】（抜粋） ・前半に事例検討があったのがとてもよかった。 ・紙上事例のグループワークを通して、精神疾患を有する対象者を理解するための視点について意見交換をできたのがよかった。 ・精神障害を有する外部講師の話を書くことで、患者さんとのかわり方について、想像しやすかった。いい機会になった。 ・コラージュ療法が楽しかった。 ・精神疾患について、様々なビデオや活動があり、精神疾患患者との向き合い方を少しでも理解しやすくして下さって、時間があっという間に感じた。 ⇒ご意見、ありがとうございました。引き続き、来年度も学びを深められるように講義を組み立てていきたいと思います。

令和4年前期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
地域看護援助論	<p>・授業アンケートへのご協力ありがとうございました。</p> <p>【授業に参加してよかった点】（抜粋） 「地域診断をすることで、自分が知らない地域を理解できてよかった」「地域診断を通して実習に行く地域について事前に調べることができたのが良かった」「様々なゲストの先生のお話を聴くことができてよかった」</p> <p>【改善したほうがよい点】 改善したほうが良い点はありません</p> <p>【その他意見・感想】 地域診断が楽しかった</p> <p>・以上の、意見がありました。</p> <p>・本科目では、地域で暮らす人々の健康課題を把握し、より健康な生活を営めるよう支援する基本的な知識・技術について学びます。具体的には実習先施設となる市区町村の地域診断を行い、3年生後期の地域看護学領域の領域別実習における理解を深める演習も行いました。関連する公的施設、企業等で実際に看護職として活躍する外部講師の講義も取り入れています。</p> <p>・地域診断の演習は、市町村が公表している限られたデータから健康課題を拾い上げ、資料化して発表するという難易度の高い演習でしたが、知的好奇心を持って取り組んでいただいたことが伺え、うれしく思います。</p> <p>・学生自身の授業目標達成度も過年度と比較し、少しづつ伸びてはいますが、全授業平均よりはやや下回りました。授業外の学習時間も全授業平均を下回ったことから、今後は、事前事後の課題を適切に提示すると共に、講義資料や時間配分を適切化し、授業目標の達成度を高められるよう努めてまいります。</p>
看護マネジメントⅠ	<p>本科目では、看護管理の基本的原則や理論を押さえつつ、履修生にとって「管理」という概念や機能をより身近なものとして捉えられるような内容構成や配置にしている。</p> <p>そのため、特定の教科書を指定せず、授業資料で十分な理解ができるよう工夫している。</p> <p>また、後期の領域実習の準備にもつながる内容を多く取り入れるようにしている。</p> <p>授業評価のコメントでも、その点は履修生に確実に伝わっており、学習効果が得られていると評価する。</p> <p>特定の教科書を指定しない代わりに、毎回の授業で参考図書や文献等を紹介し、自己の必要に応じてさらに深めた学習ができるようにガイドしている。</p> <p>しかし、特定の教科書がないことに戸惑いや不便を覚える学生もいることから、次年度は教科書の指定について再検討していきたい。</p>
看護マネジメントⅡ	<p>本科目は、看護学群の最終学年として、今後の自分の専門職としてのあり様にどのように向き合うべきかを考え、その考えを言語化していくことに主眼を置いている科目である。</p> <p>評価も到達目標に対応したレポート課題と毎回の授業内容に関する各自の思考を表現することによるものにしており、特に問題ないと考える。</p> <p>今年度の意見・要望として、演習やディスカッションの時間を増やしてほしいというものがあった。</p> <p>総合実習により、実質的な授業が13回とならざるを得ない事情はあるが、授業内容や順序性を考慮しつつ、次年度の授業計画に取り入れていきたい。</p>
在宅看護援助論Ⅱ	<p>在宅看護援助論Ⅱは、在宅看護援助Ⅰでの学習を踏まえて、小グループでの事例検討をしたり、実際に在宅療養者が使用している医療機器や福祉機器等の理解が深まるよう、業者の方の協力を得て、演習で実物に触れる機会を設定しています。また、老年看護援助論での学習と継続して、同じ対象での時間的経過を考慮した在宅療養での看護過程の展開を学習することで、ライフステージの特徴や、人の健康の連続性の理解に繋げることを意図しています。在宅看護は、人の生活そのものの中で展開される看護であり、社会的な側面の理解として、制度や法律の学習、様々な社会的な仕組みの複雑性、対象の多様性など理解が必要となるので、難しく感じられているのではないかと思います。ですが、多くの皆さんが、実際に実習で在宅看護の現場に行き、学んだ際に、分からなかったことがつながった実感を話してくれています。</p> <p>これまで以上に、講義の中では、実際に演習して理解するという体験が難しくなっていますが、コロナ禍が続く中で、これまではなかった教材が活用できるようになってきました。皆さんが主体的に学ぶ機会につながる教材の活用等、工夫していきたいと思います。</p>
緩和ケア論	<p>各授業のレスポンスカードから、緩和ケアを必要とする人の状況に、倫理的問題を含んでいることへに気づきが伺われ、看護実践者としての役割や責任感が養われていることがわかりました。授業評価の意見で、「事例検討があることで、知識の看護への活用ができた」「臨床で働く方の講義を受けることができたことで、実際の緩和ケアについて深く学ぶことができた」などがありました。臨床をイメージして、看護を深める学修ができ、1年からの学修を統合する授業になったと思います。</p> <p>授業資料を早めに提供してもらえると学修の準備がしやすいとの意見がありましたので、事前学習をしやすいよう、資料の提供タイミングを改善したいと思います。</p> <p>今後も重要な基本知識を押さえ、臨床での実践的な看護を学べる授業の充実を図ります。</p>
公衆衛生看護援助論	<p>全ての項目において、平均値よりも高く、目標達成できた学生が多かったと考える。この科目は保健師国家試験受験資格を得るための必須科目であり、また、今後の公衆衛生看護関連科目での学習の基礎となる科目でもある。そのため4-5回の授業毎に試験を行っているが、自由記述には、4回ごとにテストがあり、ポイントがわかりやすく、大切な部分が残る授業、資料が整理されて見やすかったという記述もあり、授業の方法が適切だったと判断できる。公衆衛生看護に関連する知識は日々更新される情報が多いことから、今後も常に最新の情報をわかりやすく伝えられるように努めていきたい。</p>

令和4年前期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
公衆衛生看護活動論Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価へのアンケート、ご協力ありがとうございました。 ・自由記載やご意見は、本科目には、直接にはありませんでした。 ・直接のご意見ではありませんでしたが、公衆衛生看護活動論Ⅱの「その他の意見・要望について」に、「(本科目にも共通して)講義と演習の区別が付けにくかった」とありました。 ・本科目は、保健師国家試験受験資格を得るための必須科目で、また公衆衛生看護活動演習Ⅰと並行して、公衆衛生看護の支援技術の特性、保健指導の目的、各接近技法・技術の特色について学修を深めます。 ・そのため、本科目においても講義と演習の区別がつきにくかった点があったかと考えます。 ・授業評価でも「授業の要点・内容の整理」が、全授業平均を下回りました。今後は初回授業における授業計画の説明を丁寧に行うと共に、資料の充実にも努めます。 ・授業外の学修時間が平均を下回ったため、今後は事前事後学修の必要性を明示するなどして、学生自身が自ら学びを深められるように努めます。
公衆衛生看護活動論Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価へのアンケート、ご協力ありがとうございました。 ・「授業に参加してよかった点」「改善したほうが良い点」に意見はありませんでしたが、「その他の意見・要望について」で、「講義と演習の区別が付けにくかった」とありました。 ・本科目は、保健師国家試験受験資格を得るための必須科目で、また公衆衛生看護活動演習Ⅱと並行して、公衆衛生看護学実習にも資する地域診断、健康教育の手法や方法論についての学びも深めます。そのため、講義と演習の区別がつきにくかった点があったかと考えます。 ・授業評価でも「授業の要点・内容の整理」が、全授業平均を下回りました。今後は初回授業における授業計画の説明を丁寧に行うと共に、資料の充実にも努めます。 ・また、事前事後の学修時間が全学平均を下回りました。事前事後学修による理解の深化は重要であり、今後は適切な事前事後学習の必要性や具体的な内容について説明するよう努めます。
公衆衛生看護活動論演習Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価へのアンケート、ご協力ありがとうございました。 【よかった点について】 ・寄せられた意見は1件で、「課題をグループワークや講義時間内に終わるよう、工夫していただいたのでありがたかった」とありました。本科目では授業外の学修時間が全授業平均を下回りました。事前事後学修は理解を深めるうえで重要であることから、今後は、適切な事前事後学修時間の確保につながるよう、必要性和具体的な内容の説明に努めます。 【その他の意見・要望について】 「(公衆衛生看護活動論Ⅱ)の講義と演習の区別が付けにくかった」とありました。 ・本科目は、保健師国家試験受験資格を得るための必須科目で、公衆衛生看護活動論Ⅱと並行し、公衆衛生看護学実習での学びに備えた演習(地域診断・健康教育の企画・教材作成・発表等)を実施しています。演習には公衆衛生看護理論の理解が基盤となるため、講義と演習の区別がつきにくかった点があったかと考えます。 ・今後は初回授業における授業計画の説明を丁寧に行うと共に、理論と演習・実習とのつながりを説明し、見通しをもって演習に取り組めるよう、説明と資料の充実に努めます。 ・また、演習に要する演習時間が予定より必要であったことや、事前事後学修時間が平授業均を下回ったことから、事前事後の学びと演習に要する時間のバランスを図り、目標に到達した充実感の得られる授業を展開するよう努めます。
教職論	<p>昨年度より到達目標を設定し直したところであるが授業の難易度、学生自身の目標到達度認識、目標到達できる内容であったかどうかについて、教員側の認識にズレが顕在化したように思われる。次年度は、ルーブリックの内容を精査することで対応したい。</p>
教育学概論	<p>昨年度からの課題である授業内容の精査を継続的に進めることで、また、事後学修の指示を丁寧に行い、内容の定着を図りたい。</p>
教育心理学	<p>最初の教職科目ですが、教職基礎にあたる科目なので、内容的に抽象的なところがいくつかあったと思います。</p> <p>教職基礎科目として、比較的広い領域を扱う必要があるため、幅広い関心・知識の修得が必要となります。そのため要点を絞って教えるということになじみにくい科目です。あらかじめ、理解しておいて欲しい用語や内容について提示していきたいと思います。</p> <p>資料はすべてプリントして配付すると同時にTeamsにアップしたと思いますが、配られていないページがあったとのコメントがありました。そのような場合は、授業後に指摘してください。</p> <p>事前・事後学修時間が不足しているので、課題等を出すことで学修時間の確保を進めていきたいと思います。</p>
教育の方法	<p>最終学年の教職科目ということで、これまで教職科目で学んできたことの総まとめ的な意味の科目として位置づけられます。</p> <p>教職課程の再課程認定に伴う「教職コアカリキュラム」に対応した内容になっていますが、興味・関心を持って授業に参加できていたようです。</p> <p>変わりつつある学校現場の様子や学校現場の抱える問題が伝わるような授業内容にしていきたいと思います。</p>
道徳、特別活動及び総合的な学習と生徒指導	<p>今年度、担当教員間での評価基準、評価方法の違いが明確になった。今年度は担当回の全てを対面で担当された方、一部をオンラインで担当された方と、2パターンの授業展開があったためとみられる。</p> <p>各教員に到達目標の確認、評価方法等の点検をお願いし、授業改善を進めていく。</p>

令和4年前期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
人間発達学	<p>自由記述の主なものは以下のとおりです。</p> <p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床経験に基づく授業展開や映像を使った点 ・対話の感覚で受講できて楽しかった ・国試対策も意識していた点 ・全体的にわかりやすく楽しい授業だった ・メリハリがあっていい ・実際の出来事を挙げて話してくださったりしたので理解しやすかった ・自分の今までの成長過程と照らし合わせながら、学習を進めることが出来たので理解しやすかった ・とても興味深い内容の数々だった。今後の生活の助けとなると感じている <p>改善したほうがよい点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の要点が分かりづらい
医療倫理学	<p>自由記述「改善したほうがよい点」でご指摘のあったQに、Aでお答えします。</p> <p>Q「期末テストの分量が多すぎる。」(1名) A：最終試験受験者全員のうち、解答を完了できなかった学生は1名のみでした。講義時、レポート作成時、油断なく、怠ることなく、その都度、全力を出し切る積み重ねを継続すれば、分量が多かるうが、難解な設問であろうが、必ずクリアできます。</p> <p>Q「小レポートの設問が抽象的で、なにを大事に書けばいいのかわかりませんでした。」(1名) A：医療倫理学レポート作成の目的は、知識の整理でもなければ、記憶の正確な再現でもなく、簡単には白黒つけがたい難問に肉薄して、あきらめることなく、四苦八苦しつつづけて、自分自身の考えを鍛錬し、誰にでもわかりやすく表現することです。金太郎飴のごとくに全員同じような解答が並ぶようなレポート課題はそもそも出題されていないので、簡単に答えが出ない難問で、自分を鍛え上げるスリリングな愉しみを、宮城大学1年生として味わい尽くして欲しと思います。きっと達成感が得られますよ。</p> <p>Q「レポートを返却するか評価を教えるかしてほしい。」(1名) A：「レポートは一切返却せず、すべての成績評価終了後、速やかにシュレッダーで粉砕する。」旨あらかじめアナウンスしていますが、周知されていないようなので、「レポートは提出前に、必ずデータファイルで保存する、手書きの場合は写真で保存することを毎回徹底する」ように、繰り返し、繰り返し注意を促します。とりわけ優秀な内容については、ご本人の同意が得られた場合のみ、個人名を明らかにせず、紹介する場合があります。要件を満たしていないレポート、質的にお粗末なレポートについては、ご本人に連絡の上、かならず、何度でも再提出を求めます。小レポートは、最終試験にも、文字通り直結するものです。自分で自分の宝を増やしていただく愉しみを、何度も繰り返し繰り返し強調します。</p>
形態機能学Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドに講義内容をまとめていただいていたので復習の際に大いに役立ちありがたかった ・見返したときに少し資料が見にくい。 ・授業資料がごちゃついていて見にくいです。図を詰めすぎない、文字を視覚で囲むなどしてまとめるなどすると良いと思います。 <p>回答：複数の情報が1つにまとめられた図やスライドは、どれ1つとして無視していい事柄はなく、複数の情報を一体化・俯瞰して学ばなければならないものです。バラして断片的に学習すべきものではありません。ただ単に”見づらい図”はその都度指摘してくだされば対応できます。また、電子ファイル(PDF)で確認できます。拡大することもできます。小さい字などでも読めることは確認しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストで授業内容を復習できた ・毎回のテストが役に立った。 ・問題演習を中心に学修したい身としては練習段階で合否が決まるのは非常に困るのでぜひともやめていただきたい。 <p>回答：まず小テストも含め”試験”は評価と関係しない練習問題ではありません。次に問題演習を中心に学修するのはやめてください。口頭やプロジェクターによる説明、書面（教科書など）から基本的に学習できるようになってください。卒業後に現場に出れば、学ばなければならない様々な説明を同様の方法で学習し、それを自分自身で広く深く発展させていく必要に迫られます。問題（事例検討会など）に対する説明会もありますが、それは学ばなければならないごく一部しかカバーできません。いろいろな実際の現場でその都度学ばなければならないことが多く、これは練習ではありません。さらに学習する過程で、講義の最初に示されている講義目標（～説明できる）自体が演習問題であり（説明できますか?）、”どうしてだろう”と自分で考えること自体が演習問題です。また、教科書などの巻末などにも例題があり使用できます。しかしながら”問題”は学ぶべきことの一部です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分からない問題の答えを教えてください ・小テストで回答が提示されないのは困る。生物は暗記なのだから答えを丸暗記させてもらわないと何が事実かわからない。 ・復習に困る。小テストに解説をつけてほしい。何が違うのか、どう違うのかという観点で勉強させてほしい。 <p>回答：正解を全て公表するかはまだまだ思案中です。講義中に説明していますが、解らなければ私や友達に質問したり議論しながら主体的に学習し正解に辿り着く論理的思考を身につけて下さい。ほとんどの学生は小テストの6割以上を正解していますから盛んに友達と議論しても正解に辿り着くはずで。残念ながら一部の学生さんは私や友達とあまり質疑応答せず、WEBの公開掲示板でさえやりとりしていないようです。また以前、正解を公開後に似た応用問題を再出題しても、ただ正解を暗記しただけで論理的に十分に学んでいないのか、間違う場合が結構あります。暗記だけでは十分に学修することはできません。</p> <p>再試験の公開期間を延ばしてほしい</p> <p>回答：成績決定時期があるので、再試験の開始を早めます。</p>
形態機能学Ⅱ	<p>学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、遠隔授業、対面授業に関わらず、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っております。</p>

令和4年前期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
看護学原論	<p>年々、抽象的な概念の取り扱いが困難で文字通りの理解しかできない学生が増加している。また、集中して話を聞ける時間も短時間になっている。このため、講義内容を90分のうちで3分割し、途中で何らかのワークを入れるなどしてスモールステップの積み上げ型に変更していく必要がある。またMoodleへのアクセスやPCの取り扱いについてはほとんど自立しており混乱なく使用できているので、ITを使用した学習方略については今後も継続していく。今年度は大きな教室の確保ができなかったため、GWを演習室、中規模教室に分散せざるをえなかった。質問や指導は教員のラウンドとTeamsの利用で行ったが、2、ないし3か所以上の分散は1年前期の学生の準備状態では困難が伴う。レスポンスカードからはお互いの意見を知ることに対するニーズが高いことが示されているので、次年度は講義中心の展開とし、途中でSlidoなどのツールを用いて学生の講義参加を促す。</p>
特別支援教育	<p>開講初年度の特別支援教育であったが、非常勤講師の先生の授業に対する学生たちの満足度は高く、意欲的に学習を進めていた。実際に、十二分な学修成果を達成することができている。次年度以降も双方向的な学習活動を通して授業改善を図るとともに、到達目標についての検討（到達度の設定等）を進めていく。</p>

令和4年度前期 授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
地域政策概論	地域政策は多様な分野にかかるため、オムニバスで提供しています。次年度以降も地域のさまざまな課題を多様な視点からアプローチできるように同じ方法で提供する予定です。全体像が見えるように、初回の講義で講義の目的がより明確になるように説明を加えるようにします。
ミクロ経済学	全授業の平均値より低かった点について、改善計画を検討する。「知識、技術等役立つ、関心」の内容が低かった。経済学の内容のため、技術の習得とはマッチせず、関心を高めて知識を豊かにできるように工夫したい。グラフや数式で表されている経済モデルが、現実の市場ではどのようなことを意味しているのか、イメージしやすくなるような例話を用意したい。また、「難易・進度の適切性」の内容が平均より低かった。微分演算などの数学が利用される点で難しく感じられる部分もあるので、二次関数などで可能な限りモデルを作成するなど工夫したい。
地域調査法	<p>授業評価アンケートの結果から、複数のゲスト講師による講義により、講義内容が多岐にわたり幅広く学べると好評を得ている。特に、外部講師の多数起用により、良い刺激を受けているようである。</p> <p>また、受動的に講義を聞くだけでなく、学生自身で課題に取り組む場を設ける講義設定も多くあり、Webをはじめとする様々な情報源を駆使して自身の住む街に関するデータ等を得て、それを次のステップにどのように活用するかなど、学生に対して具体的な学修状況の場を提供できていると考えられる。</p> <p>しかしその一方で、講義へのフィードバックに関しては課題が多い等の要望もあるが、講義の性質上、たんなる座学により、知識を聞くだけでは、当該講義の趣旨を満たすことができないため、来年度についても今年度と同等の課題を課すことにするが、その方法などに関しては、新たな検討を行うこととする。</p> <p>コロナ禍は落ち着いてきつつあるが、完全に収束した状況ではなく、学生の健康やメンタルヘルスを考慮・配慮して授業を進めていく必要がある中、対面とオンラインのハイブリッド形式の講義方法は学生にとっても高評価となっており、今後の講義方法に関しても考慮していきたい。</p>
データサイエンス	「理解できない」「わからない」という苦情が散見された。しかし、ほぼ同じ内容をやった価値創造のクラスよりも、この種の反応ははるかに少なかった。文系のこのクラスのほうが、 https://moodle.myu.ac.jp/mod/page/view.php?id=14849 の趣旨をわかってくれたということかもしれない。「とても面白かった」「文系学生にもわかりやすい講義だった」「全く理解できませんでしたが…頑張れました」「とても楽しかった」のような好意的なコメントを多くいただき、ひとまずほっとしている。元々の担当教員が急に退職したため、私が二年間この科目を受け持つことになった。文系の学生諸君にこのような内容を教えることは、私自身にとっても多くのことを学ぶ契機になった。受講してくれた諸君に感謝する。来年度は別の教員がこの科目を担当する予定である。
応用統計処理	<p>授業アンケートへのご協力、有難うございました。</p> <p>・講義およびスライド資料がわかりやすく、説明が丁寧であったといった意見を多く頂きました。1年次から学んできた統計に関する知識の定着度確認を念頭に置くとともに、応用統計の観点から問題や課題に応じて自ら分析手法を選択・実践できるようになったとの感想を踏まえ、「データの解釈」と「統計データの整理」といった到達目標も達成できていると考えています。引き続き、わかりやすい説明と資料づくりを心がけ、上記の学びを深められるよう努めていきたいと考えます。</p> <p>・213名が一斉に講堂で学ぶ対面講義であったため、学生個々の理解度に対するばらつきについて目の行き届かない点が懸念されましたが、可能な限り学生の進捗状況を把握しながら進めることを心がけました。そのため、講義の難易度やスピードに対する見解・感想に対してもばらつきがあったと感じています。練習問題を複数用意するなど、学生個々の理解進度の違いについても配慮するよう努めたつもりではありますが、今後さらなる改善・工夫を検討していきたいと考えています。</p>
キャリアデザインII	<p>・上記3の到達目標を掲げて、授業中に学生自身が考える時間や個人ワークを多く盛り込んだ結果、「講義中に個人の学習時間が設けられているところが良かった」、「学生の授業への積極的な参加を促す講義だった」と肯定的な自由記述を得た。また、「将来について深く考えるきっかけになった」、「キャリアを身近に感じられた」、「自分の知らない自分を、自己分析を通して知ることができた」など、到達目標（学習のねらい）が達成できたと思われる自由記述も見受けられた。さらに、ブラッシュアップしていきたい。</p> <p>・改善を求める点として、「課題のテーマをスクリーンに映している時間が短い」といった指摘があった。今後は、学生がノートテイキングしやすいような投影方法・時間を考慮したい。</p>
インターンシップI	<p>本科目は旧カリのため開講予定はないと思われるが、念のため記載する。</p> <p>多様な有力企業・行政による講義を盛り込み、経済社会で働くということをイメージできるようにしながら、低学年からインターンシップの内容や意義を具体的に理解し、自ら機会を見つけて挑戦できるように講義を運営する。</p>
ゲーム理論	全授業の平均値より低かった点について、改善計画を検討する。「知識、技術等役立つ、関心」の内容が低かった。ゲーム理論の内容のため、技術の習得とはマッチせず、関心を高めて知識を豊かにできるように工夫したい。数学の分野から派生していることもあり、抽象的な数値例などが例題で出ているため、具体的な取引者の競争関係にあることなどを説明し、イメージしやすくなるような背景を用意したい。

令和4年度前期 授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
地理情報分析	<p>授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。</p> <p>【よかった点の自由記載】（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面白かった、勉強になった。 →引き続き、関心をもって取り組める講義の提供をめざします。 ・丁度よいペースで楽しく学ぶことができた。 →作業ペースは個人差が大きく、授業のペースの設定にいつも頭を悩まされますが、できる限り全体を見渡しながらかペースの設定をおこなっていきたいと思います。 <p>【改善したほうがよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室が狭かった →可能であれば、より広い教室で講義を実施します。 <p>【その他、意見、感想、要望など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
多変量解析	<ul style="list-style-type: none"> ・より理解を深めてもらうため、演習問題の内容の見直しやフィードバックの方法を工夫してみたい。
キャリア開発Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・自由記述欄には、「授業時間内のワークの時間が短い」「授業の進度が速い」などの指摘が多かった。それが、「難度・進度の適切性」の回答平均値が低いことに現れた結果となった。また、「教材・説明」の回答平均値も低かった。これらの結果を踏まえて、授業各回の教育内容を平準化するとともに、授業冒頭に当該回の授業内容やワークの意図などを丁寧に説明するよう改善に取り組む。 ・「先輩から学ぶキャリア開発」の授業回に関して、「先輩からの体験談は、もっと様々な職種の方の話を知りたい」という自由記述の指摘を踏まえて、業種・職種のバランスを考慮しながら人選を進めることとしたい。
情報と環境	<ul style="list-style-type: none"> ・全面的に対面授業として実施でき、またこれまで開発したオンライン授業コンテンツを用いることで、学生が興味を持続しながら授業を受けてもらうように工夫した。授業評価結果は、それらの効果もあり概ね良好であると判断するが、今後も、学生が楽しく学べることを重視してコンテンツ及び課題の改善を進めていきたい。 ・期末試験成績に基づく学修理解度も概ね良好な値であるとともに成績分布も優を中心とした分布となっており、学生の理解度は良好な結果を示している。来年度は低学年でのカリキュラム改正により、授業内容の一部見直しが必要であり、内容の更新とレベル調整を進める。 ・授業評価の自由意見では、内容や課題が面白かった等の肯定的な意見が多くみられた。また提出課題の全てにコメントを付して返したことでモチベーションが維持できて良かったとのコメントが複数みられた。一方、課題の回答例があった方がよい、成績における課題の得点比率を増やして欲しい等の意見もあり、引き続き、改善を進める。
色彩と形態	<p>授業評価より、実践的な内容、最新の事例の紹介、デザインそのものを考えるための内容は良かった点として多く挙げられていたため、次年度以降も情報の整理とコンテンツの拡充を図っていく。また、要望の多かった映像の音量とマイク音量のバランスについては改善する。</p>
応用情報処理（事業）	<p>「難しい」「わからない」という苦情が多かった。ほぼ同じ内容をやった地域創生と事業プランニングのクラスよりも、価値創造のクラスのほうがこの種の反応が多いのは何故か、理由は不明である。ともあれ、https://moodle.myu.ac.jp/mod/page/view.php?id=14712 を読んだ上でそう言うのであれば、返す言葉も無い。やはり建築やアートを志向する学生には辛い必修科目であったということだろうか。他方、「難しかったが、勉強になった」「面白かった」「楽しかった」といった好意的なコメントは苦情以上に多くあり、ひとまずほっとしている。この科目は新カリキュラムでは消えたため改善計画は無い。</p>
ビジネスプロセスマネジメント	<p>アンケート内で「1番面白かった講義」「企業を取り上げながら授業が進むため、企業分析に繋がったこと。」といった肯定的なコメントが多かったので、基本的には現在の講義内容・方法を踏襲する。今後、さらに内容をブラッシュアップさせていく。</p>
販売促進	<ul style="list-style-type: none"> ・販売促進及びマーケティングコミュニケーションの理論についての講義も増やす ・最新の事例についての情報も追加する。
現代企業論	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの回答平均値は、「知識、技術等役立、関心」のみ、本授業平均値（25.2）が全学平均値（29.2）を下回った。経営学理論およびその活用事例などの教授を強化するなど、今後の改善を図りたい。 ・自由記述では、「配付資料が、自分で要点をメモして埋める形式だったので、自然と聞く姿勢になれた」など、教材に難する肯定的意見が見受けられた。引き続き、ブラッシュアップを図りたい。

令和4年度前期 授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
ブランディング	（Z世代とも呼ばれる）受講生の世代は、生まれた時から生活の隅々までデジタルが浸透した初めての世代であり、他の世代とは異なる世界観や価値観の持ち主と言われている。今後AIなどのデジタルテクノロジーの一層の進化をベースにした社会が築き上げられていく中で、受講生には各自の世界観／価値観をベンチマークとしながら、他の世代やグローバルレベルでの違いや、それらの背景となった歴史や文化などを理解した上での幅広い視野で企業／ビジネス活動を行ってもらいたいと考えている。そのために重要なのがリベラルアーツの素養である。本講義は、世代別価値観の歴史的／経済的背景、国より異なる宗教観とそこからもたらされる価値観、ひいては哲学的思考など多面的にマーケティングやブランディングについて考えていくことを目的に講義プランを考えている。しかしながら、「コロナウイルス」「分断／二極化」「ロシアのウクライナ侵攻」「地政学的リスク」など、従来の経済活動やマーケティング／ブランド戦略構築に大きな影響（変革）を及ぼす事象が多発した関係で、新たなマーケティングやブランディング理論なども数多く紹介することとなった。その結果、シラバスを用意した時点での想定以上の情報を加味することになってしまった。受講生の一部からは、今回の講義では各回の講義で内容が多岐にわたり、時には講義での話すスピードが速すぎたために、一回の講義に内容を詰め込みすぎたように感じられていた。次回講義からの改善点として、各回の情報量をセーブし、講義内で伝えるべき内容と、講義後に各自が独自に深掘りできるように区分けして講義を進めていくこととする。これにより、各講義における「詰め込みすぎ感」をなくすと同時に、事後学習の量を増やすことに繋げられる。
リスクマネジメント	授業アンケートの「学生自身の授業目標到達度」の平均値が27.556と、全体平均（24.379）を上回っているものの他の設問項目に比べて低い結果であった。これを改善するため、第1回目授業において授業計画を丁寧に説明し、授業計画のわかりやすさを高めつつ、学生が学びたいことと授業内容のミスマッチがおきないことに留意する。 また、同アンケートの「授業外の学習時間」の平均値が0.551hrと、全体平均（1.393hr）を下回っていた。これを改善するため、事例調査などの復習課題を課すことを検討する。
会計学	授業評価、及びコメント部分におきまして、想像以上の評価を頂き有難く思っております。一方で、事前学習と事後学習に学生が費やした時間等は割合低い傾向にありますので、引き続き、授業内で事前学習と事後学習の意義、更には、具体的にどうすべきかを丁寧に指示するようしていきたいと考えます。
経営財務	受講生にとって、有益な学びとなるように、今後も非常勤講師の先生とは連絡をしっかりと取り、科目運営に励んでいきたいと考えております。
人的資源管理論	本年度以降も講義内容、授業運営、評価方法について、基本的な変更は予定していない。最新の理論、研究、事象、事例、教育メソッドを積極的に導入することで、大学生に対して本来求められる「知的好奇心」を喚起し、修学意欲（モチベーション）を高水準に持続させ、学生自身が主体的な学習行動を選択することを目的とする真摯な授業実施・展開を志向する。授業成果を最大限にするために、授業を阻害する原因については除去を徹底する。授業の第1回以外にも定期的に、「受講規程」「レポート提出規程」「参考文献引用規程」「参考文献表記規程」を周知徹底し、「評価方法」「評価基準」を再確認してもらうことで授業の説明責任を果たす。さらに、学問に対する取り組みの成果である「学習メカニズム」構築および、3年後期以降の「キャリア形成」における主体的行動に対して、十分な有効性を担保させることを考慮する授業展開を意図する。本年度は「事前に、次回の授業内容について熟読して、疑問点を明確にして記述する。」「事後に、主要理論と主要概念を整理するとともに、疑問点が解消されたのかを確認する。」について受講生に周知し一定水準を達成したものの、さらなる徹底が求められることを意識する。本授業では、大学における専門科目であることを正しく認識させて、不見識な態度、欠席、低クオリティ・レポート、日本語表現能力の欠落など、学問に対して真摯に取り組むことへの逆機能、阻害原因について一貫した対応をしてきたが、これについては継続実施する。「学問」に対して、「テキストを学ぶ」ではなく「テキストで学ぶ」ことを周知し、事前学習の実行を指示したにもかかわらず、少数の学生が認識していないことが確認された。次年度以降は、そのような学生に対して、本人だけでなく所属研究室の教員にも情報提供して積極的に協力を仰ぐことで、大学の専門科目としての質的担保を維持し、これからのキャリア形成の具体的支援の指針となる展開を考え、実行していきたい。
経営情報管理	アンケート内で「毎回の内容に厚みがあり、良い学びとなりました。丁寧な授業をしてくださることに毎回感謝の気持ちでいっぱいでした。」「講義は面白い。実践的でいろいろな企業をしるきっかけになった。」といった肯定的なコメントが多かったため、基本的には現在の講義内容・方法を踏襲する。ただ、デジタル系の内容のため、講義のコンテンツをさらにブラッシュアップしていく。
税務会計	この講義は、新カリキュラムでは閉講する予定です。 現在の授業計画を維持しながら、インボイスや電子帳簿保存法等、社会で注目を集めている項目については、柔軟に取り入れていきたいと思います。
C S R ・ 経営倫理	大学の応用科目らしく、CSRたCSVの基礎や事例だけでなく、グリーンウォッシュやSDG s ウォッシュのような、環境活動やSDG s 活動の表面的理解から引き起す、社会問題についても理解・改善ができる人材育成のため、もう一段のレベル上げを検討しています。
都市と文化	非常に多くの履修者から、配布資料について高評価を得ました。「興味を抱く話題が多かった」「非常に楽しく講義を受けることができました」などの評価も得ており、引き続き皆さんにとって充実した学びとなるよう、講義を実施します。なお、次年度からは2年前期に開講します。
行政学	講義の進め方（スライドの進行速度）で一部早くなり、同時に行う口頭説明について、十分メモをとる時間がとれなかったとの指摘があり、今後、重要なキーワード等、丁寧に、また、ゆっくりと説明するリズムにも考慮して講義を進めていきたい。
社会的共通資本	今年度は3日連続の集中講義で行ったため、課題時間を十分に取れなかったが、次年度は毎週開講科目となるため、予習復習がうまく配分されるように留意したい。
計量経済学	分析方法だけでなく、分析の過程を説明し、それにもとづき講義を進めていったため、建設的に課題を行うことができたといえる。次年度も同じようにそれぞれが課題と思うことを、データとモデルを活用して分析ができるように課題を課したい。
地域産業政策	【この授業に関して、良かった点】 学生が作成したレポート課題をもとに、意見交換や先生からのフィードバックを頂けたことが良かった。 →4年次の配当科目ということもあり、これから社会に出て行く上で必要なリアリティも意識した授業内容にするため、第一線で活躍する外部講師を招聘した。また、オンラインということもあり、対面授業よりもアクティブになるような運営方法を工夫し、ほぼ毎回の学生の発表、質疑応答を実施した。今後とも内容の改善に取り組んでいきたい。
地域環境政策	受講者が基本的には4年生であり、実社会に入る直前の段階という中で、社会の第一線で地域環境政策に取り組む各分野のリーダーの話聞く機会とする講義の意図は学生に評価されたものと理解している。その上で、担当教員の話ももう少し聞きたいとのリクエストにも感謝したい。ゲスト講師を招く前に、担当教員の当方からも講義の木庭や地域環境政策に関する入口の話をする日程を数回設けたが、その回数をもう少し増やすことができるか、講義全体の構成を吟味して更に考えていきたい。

令和4年度前期 授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
地域福祉政策	自由コメントなどでも内容は良好との指摘を受けており多くの内容を継続する予定。概ね良い評価をいただいているが、特に児童福祉の分野では、最新の社会事情等を踏まえるなど更に質的に向上させていきたい。
行政評価	就活で忙しい4年生が、その前期に講義に参加しようと努めていたと感じる。行政は常に国民や市民の信託のもとに取り組まれるものであり、その意味では、常に評価の俎上にあると言ええる。その現場で様々な取り組みを進める当事者たちの声を学生が直接聞くことができる、ということも、この授業を計画するにあたり考慮したことであった。来年度からは、本科目は「評価論」として再編され、むしろ、環境影響評価といった切り口での評価論を論じる授業計画になる予定である。その場合でも、現場の最前線で様々な工夫と挑戦、行政や市民に技術的に対応してきた環境コンサルタントの技術者たちから、現場の実情を含めた評価論の趣旨と課題を伝える内容とするよう努める予定である。
社会起業論	東日本大震災から10年が過ぎ、これまで復興起業家を中心に検討を進めてきたケーススタディを、本年度より、若手起業家や女性起業家の起業マインドシップに関する内容を取り入れた。このことに対し、アントレプレナーシップを自分事として考えられたとのコメントがあったことから、次年度も継続し、更なる改善につなげたいと考えている。本講義では、社会起業の歴史的経緯から、ビジネスプランの構築手法、プレゼンテーションと、社会起業における一連の流れをシラバスに提示し、実施しているが、更なる深化を図っていきたくと考えている。なお、本講義は、次々年度までは4年次配当科目であるが、以降の新カリでは3年時配当科目となる。移行を見据えながら、授業アンケート結果を科目改善に活かしていきたい。
民法	・受講生からは特に改善の要望はなかった。引き続き、受講者にわかりやすい授業を心掛ける。
公法	【良かった点についての自由記載】（抜粋） ・レジュメがとても分かりやすく、振り返りやすかったのが良かった。事例の説明等もわかりやすかった。 ・レジュメの見やすさや復習がしやすいよう工夫がされていた点。 フィードバックシートを通して受容的な学習ではなく、能動的な学習を促していた点。 ・本当にあった事例について講義内で所々取り上げていて、それが印象に残りやすかったお陰で、法律と事例をセットで覚えることができたこと。 ⇒行政法をはじめとする公法の初学者にとって解りやすい授業を心がけましたので、そのような評価を頂いて嬉しく思います。
水資源利用学	学生からのコメント等は特になかったが、反転学習の成果が現れていると考える。一方で、講義時間の制約上、準備した講義資料を解説する時間がとれないこともあり、昨年からの改善点としてオンデマンドの動画配信でフォローした。
災害の科学（水）	【学生からのコメント等】 ○災害について学ぶことと実際に働いている方の話を聞くことで理解が深まった。 ○ためにある内容ばかりでした！ありがとうございました！ →→今後とも、学生の理解を深化させることに努めていきたい。事前・事後学習時間が不足していることについては、課題を増やすことを検討したい。講義資料については、継続してブラッシュアップに努めていきたい。
災害の科学（土）	知識が身についた。土や災害について理解が深まった。ハイブリッド型なので家でも受けることができたのが良かった。テスト返却をしない講義が多かったが、この講義では返却してくれて振り返りができた。オンラインとの併用で実施していただけたのがとてもありがたかった。などのコメントをもらった。 社会科学系の受講生が多いので今後もより丁寧な説明、質問への対応を心がけ、講義資料の改善をしていきたい。
地区・街区計画	毎回の小レポートについて、翌週にその内容を振り返る機会を講じましたが、このことに高い評価をいただきました。また、建築士受験に直結する話題や知識を紹介したことも、皆さんの関心の高さにつながったと思われます。引き続き皆さんにとって充実した学びとなるよう、講義を実施します。
構造力学Ⅰ	・最終の成績から見て、概ね学習すべき目標には到達していると思われるが、中には、高校で物理を履修していない受講生もいることから、理解レベルが様々であることが推測できる。限られた時間ではあるが、質問への対応や課題提供などによって、個別指導や個々の学習支援を心がけたい。
建築計画	・事前事後の学修を充実するために、事前配布資料を用いた予習を促す課題の設定や、授業の録画を用いた振り返り学習を行えるような機会や復習課題などを検討したい。
インテリアデザイン	事前事後の学習時間が少ないのを改善するため、授業時間以外での学習をこちらの側から指示することとしたい。講義内容の事前知識を得るものや講義の内容をより発展させるのに役立つ動画を指定し視聴させ、その感想を提出させるといったことを予定している。（講義時に発展的にやることを促す事項は多々示しているのだが、以前の学生は普通に興味をもって自主的に取り組んでくれたのに対し、現在の学生の多くは強いることをしないとやらない傾向が強いため。）
耐震設計法	一級建築士の受験要件を満たす上で、実質的には必修相当の科目であり、多くの皆さんに受講していただきました。講義には非常に高い評価をいただいた一方で、非常勤講師のスケジュールの都合により土曜開講とせざるを得ないことも多く、この点は改善することを予定しています。
ファシリティマネジメント	・事前事後の学修を充実するために、事前配布資料を用いた予習を促す課題の設定や、授業の録画を用いた振り返り学習を行えるような機会や復習課題などを検討したい。
サステナブルデザイン	毎回の小レポートについて、翌週にその内容を振り返る機会を講じましたが、このことに高い評価をいただきました。また、建築士受験に直結する話題や知識を紹介したことも、皆さんの関心の高さにつながったと思われます。引き続き皆さんにとって充実した学びとなるよう、講義を実施します。
測量	面白い、実技もあって良かった。とても丁寧に解説していただいた。実習で学べたため知識が入りやすかった。質問もしやすかった。などのコメントをもらった。 今後もより丁寧な説明、質問への対応を心がけ、測量機器に触れる機会を提供して理解を深める講義を行いたい。
インタフェースデザイン	授業アンケートでは改善の要望は寄せられていないことから、来年度も授業の構成は継続しつつ、より質の高い内容へとアップデートしていく、本科目で扱う各トピックに対してレポート等の課題を設定したが、授業外での学修時間がやや少ない結果であったため、課題内容の修正等を検討する。

令和4年度前期 授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
コンピュータグラフィクス	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は対面授業として実施でき、これまでに開発した昨年度に作成したオンライン授業コンテンツと教科書教材の併用することにより、試験成績や授業評価における学生の理解度において良好な値が得られた。今後も理解度と難易度の適切なバランスの確保を進めていく。 ・課題については、過去にはその量が多いとの意見が多い状況であったが、今年度は量に関する学生意見はなく、逆に課題が効果的であったとの肯定的な意見もみられ、概ね適切な範囲に設定できたと考える。また今年度は毎回のフィードバックを返すことができ、学生からも有効であったとの意見も複数みられた。 ・コンピュータグラフィクスの講義内容は難しいものも多く含まれているが、今後も学習に対する学生のモチベーション維持を図るように努めたい。
ウェブデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・目標到達への学習内容の見直し <p>グループ課題とは別に事前課題を用意して制作ツールへの導入を作り、グループワークの時間を増やすことで、到達目標に対してより経験を積めるようにする。</p>
感性情報デザイン演習II	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は履修学生数も例年に比べて少なかったこともあり、教員－学生間の距離も近く、効果的な指導ができたと考えている。授業評価の結果においても、多くの項目で昨年度の数値を上回る結果が得られ、また自由意見の中でも制作中の質問対応が適切であった旨の肯定的な意見もみられた。 ・演習での課題設定については、楽しかった、一定のルールの中で自分が作りたいものを作れた等の意見もあり、適切に設定されていると判断する。 ・来年度もより一層の理解度の向上を目指して、授業内容及び方法の改善に努めていきたい。
情報サービスデザインI	<p>昨年度から、「情報サービスデザインI」と「情報サービスデザインII」の両方を一人で担当することになった。「I」で基礎を固め、「II」でやや高度な応用に踏み込むという組み立てである。従って、「I」では、とにかく易しく、優しくして、脱落者を出さないことを目的とした。そのため、こんな生温い内容では学生から苦情が出るのではないかと心配していたが、どうもそういうことは無かったようである。アンケートの記述でも改善点の指摘は無い。便りのないのは良い便りとポジティブに解釈したい。来年度は、そろそろPHPのバージョンを上げたい。しかし最新版に対応した良い教科書が無いのが問題である。自分で書きたいところではあるがそんな時間は無い。来春までに誰か書いてくれればよいのだが。</p>
フィジカルコンピューティング	<p>授業アンケートでは改善の要望は寄せられていないことから、来年度も授業の構成は継続しつつ、より質の高い内容へとアップデートしていく。本科目で扱う各トピックに対してレポート等の課題を設定したが、授業外での学修時間が少ない結果であったため、課題内容の修正等を検討する。</p>
エンタテインメントデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、担当の遠藤雅伸講師が4月の講義を終えた時点で入院する状況となり、急遽、岸本好弘氏に講師を依頼することになった。授業実施曜日の変更が生じざるを得なかったが、やむを得ない対応であった。 ・講義内容に関しては、授業評価結果ではほとんどの項目で25ポイント以上の値が得られ、自由意見でも「工夫された講義内容で楽しみながら学ぶことができた」との意見もみられ、授業内容としては概ね良好な状況にあったと判断する。 ・次年度講義では、より学生が楽しみながら学ぶことができるよう、授業内容や方法について工夫していきたい。
グラフィックデザイン	<p>担当教員が定年退職のため本科目は本年度限りとなります。</p>
デザインマネジメント	<p>担当教員が定年退職のため本科目は本年度限りとなります。</p>
プロジェクトマネジメント	<p>4年次の選択科目であるので、わざわざこれを履修する学生は高いモチベーションを持っていた。毎回面倒な課題を出したにもかかわらず、最後までついてきてくれた学生諸君に感謝する。</p> <p>学部時代には、3年次の「チームプロジェクト研究」の基礎教養として、2年次に「プロジェクト管理」を開講していた。学群制になって「チームプロジェクト研究」はカリキュラムからは消えてしまったが、3年までの演習科目でプロジェクトを行うこともある。4年になってこの講義科目で過去の演習を振り返ると様々な反省があるというかたちで学生諸君は受講してくれたようである。その観点でプロジェクト管理を議論することは私にとって学びが多かった。来年度はその観点をさらに充実させるように内容を改善していきたい。</p>
生活環境デザイン演習II	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次の生活環境デザイン演習Iでは「設計製図の基礎的知識」の習得や「設計案の作り方」すなわち「問題」に対する「回答づくり」の方法を学ぶことに主眼を置いているのに対して、この生活環境デザイン演習IIは、「解くべき問題づくり」に主眼を置いており、そのプロセスと方法を学ぶことを学習目標としている。このことは、事業構想学におけるデザインを学ぶ上で重要な視点であることを理解した上で、取り組んでもらえるような課題設定や時間配分などを検討したい。 ・「全体で行うプレゼンテーションと講評」で対面とTeamsによる同時配信を行ったように、さらにICTを活用して発表や他者の指導の様子などを閲覧する機会を増やすことで、より多くの情報を得られるような工夫を行いたい。
事業構想学概論	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染症対策で、学生間での話し合いなどの時間を設けられておらず、スライドをみながら話を聞くだけのものが多いため、実際に手を動かして考える演習的な部分を取り込むことを考えたい。

令和4年度後期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
有機化学	本年度は、結果的に「不可」の割合がやや多めになった。当該科目は暗記だけでは十分に対応できず、内容をしっかり把握することが求められる。このため、自らの考えることが重要である旨、授業の中でもしっかり説明する。また、授業の中で、演習の時間帯を設け、この中で、学生間での学び合いの機会を作り、より理解を深めるようにする。いずれにしても、内容把握が求められる科目であるため、個別質問の機会もつくり、丁寧に対応する。また、受講学生にはしっかり学習時間を取って学ぶよう伝える。
経済経営学基礎	この科目は令和3年度入学者までのカリキュラムでは2年前期に配置されていましたが、令和4年度入学者からの新カリキュラムでは1年後期に配置されています。このため、この授業改善計画を書いている時点で既に新しいカリキュラムでの授業は半ばを過ぎたところとなっています。現在進行中の令和4年度後期の授業で修正できることとして、授業の後半に置かれている経営学の部分での成績不振者を生じないようにするため、説明を丁寧にすることを心がけたい。今回、学生からの意見として出ていた「紺屋先生の出番がもう少し多くていい。」という意見や「社会と経済の内容が被さっている。」という意見については、令和5年度後期の授業へ向けて検討を進める。
科学基礎実験	1班4人の構成としたことから、全員が実験に携わる機会が得られ、おおむね良い感想が聞かれた。 レポート作成が大変との感想が多かったが、中には「レポートを書く技術があがった」との意欲的なコメントもあった。 本科目の到達目標の一つに「データ処理や実験報告書を作成できる」が掲げられており、これは、今後の全ての実験実習、卒業研究、ひいては就職後のキャリアの礎ともなる重要な設定項目である。レポート作成はこの到達目標を達成するための重要な学修手段であるため、是非皆さんには頑張ってもらいたい。 教員側も、メ切を早めに告知する、教員間で情報を共有しメ切の調整を図るなど、学生が十分な学習時間を得られるよう、改善を行いたい。
食材生産・加工実習Ⅰ	ほぼ同じ実習を行った1年生に比べて、コメントが少ないのが残念。レポートの評価について改善を求める意見があったが、今後、事前に評価方法を明確化するなどを検討したい。 本科目は新カリで1年生で実施することになるため、初学者に向けての実習方法について検討する。
応用情報処理（食産）	対面での演習を中心とした内容であるため、小グループによる発表会も実施した。また、講義中に自分で操作する時間を増やすことに心掛けたが、好評であった。一方、講義開始前のスキルの差が学生間で大きく、内容が簡単すぎると感じる学生もいた。今後、幅広いレベルの学生に対応する内容にするのがよいと考えられる。または、レベルごとにクラスを分けることも必要と考えられる。さらに、コンピュータ関連科目を、入学直後に重点的に実施することも検討したい。
応用統計学（フード）	応用統計学は令和4年度入学者からは新しいカリキュラムに沿って開講される。ここで記入している応用統計学の授業とは科目名は共通であるが、新カリキュラムの下では異なった位置づけで異なった内容で展開される。ここまでの応用統計学の授業の経験を踏まえ、より良い授業となるように配慮することはもちろんであるが、大きく変わる要素があることには注意してほしい。 具体的には、旧カリキュラムによる令和4年度までは1年後期の「基礎統計学（必修2単位）」に続く2年前期での「応用統計学（必修2単位）」として位置づけられていたものが、新カリキュラムによる令和5年度からは、1年後期・2年前期での基礎統計学Ⅰ・Ⅱ（必修、計4単位）を履修した後での「応用統計学（選択2単位）」として位置づけられているので、到達目標も扱う内容も変更される。また、今年度の授業では事前・事後の学習時間が少なかったが、今後、選択科目となることを考慮して課題の質と量を上げていく。
キャリアデザインⅡ（食産）	“キャリア”を考える際に、“自己選択権”と“自己決定権”は大切です。多種多様な情報を用いて、自らの職業を選択する際に論理的かつ効率的な手順として、“キャリア・プランニング・プロセス”があります。そのプロセスの中で、低学年である今は、“データベース”を構築する時期として、その分野の第一線で活躍されているファイナンシャルプランナーや宮城県（共同参画社会推進課）、卒業生に外部講師として登壇頂きました。将来の“自己”を取り巻く社会理解を深める事ができ、将来像をイメージしやすくなった方も多かったと思われます。 また、「インターンシップⅠ」科目と差別化するために、キャリアの理論を用いて“働く・仕事”にも焦点を当てました。多方面から、“働く・仕事”を紐解く事で、それらを“自分事”として考える機会を多く提示できたと思います。今後も、“データベース”の構築ができ、職業観が深められるような授業展開を行います。 そして、低学年での企業インターンシップ参加率増加や就職活動の早期化に対応するため、就職活動のノウハウも低学年より伝えていきます。 なお、本来キャリア科目は、グループワークを通し、自分の考えを他者に伝え、他者の考えを聞く事で、“気づき”が生まれ、自身の価値観を深める事ができる科目です。しかし、現状、グループワークを実施するにもある程度の制約があります。今後、対面式での開講メリットを活かし、“気づき”を得られるようなワークを検討していきます。
食料・農業・農村政策	大教室で一人で実施しているので、意欲の低い学生の動向を注視することが難しく、周囲の学生の意欲を阻害するという事にまで配慮が難しい。何らかの方法でこういう学生に対応する必要がある。また、この授業は、大事なところと大事でないところという区別がなく、すべて大事である。ただし、学び方があり、授業で説明をしているが、特に歴史を踏まえることが重要なので、日本の戦後史を学んでいる方が理解しやすい。なお、レジュメは単なるメモなので、しっかり講義を聴き、その補足でレジュメを見るようにしてほしい。そのためには、教室の後ろに座るのではなく、前に座る。あるいはホワイトボードが見えなければ、見える位置に移動するなどして自分の力で柔軟に対応してほしい。また、新鮮な視点を入れるために外部講師を招聘する。
キャリア開発Ⅱ（食産）	「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」では、自己理解、社会環境理解。「キャリア開発Ⅰ」では、職業選択を意識した業界・企業研究を学びました。この「キャリア開発Ⅱ」では、これまでの学習、知識を活用し、インターンシップの選考化や就職活動の早期化、選考のオンライン化に対応すべく、履歴書の書き方、適職診断、グループディスカッション演習（対面式、オンライン形式）、オンライン自己紹介発表会を実施しました。また、企業の人事担当者による講話にて、企業が求める人物像や企業の視点について理解する事ができたと思います。その他、就職活動トレンドをお伝えするために、就職情報サイトとも連携を取り、情報提供を行ってきました。 複数名が登壇という事もあり、説明や内容が重複する場合があります。重複する点は、“より重要箇所”と認識ください。今後、登壇者との事前打合わせをしっかりと行ない、より多くの就職関連の情報を提供していきます。また、近年、多くの企業インターンシップで実施されているグループワークは、主観的思考の整理と客観的な視点の確認をすることができます。講義内でも、グループワーク実施を増やしていきます。 なお、講義で活用したTeamsに提示している資料などは、今後のインターンシップや就職活動に必要な情報（資料）なので、再度、確認下さい。講義内で実施した履歴書の書き方、グループディスカッションなどは、あくまでも就職活動の“基本”です。例えば、履歴書やエントリーシートに記載する“自己PR”。“基本”の書き方を身に付け、再構築（練習・添削）を重ね、自分のオリジナルの文章となります。いろいろと身に付けた就職活動の“基本”を、是非、応用させてください。 今後も「キャリア系科目」と「インターンシップ科目」で連携をとり、学生が自身の進路や、将来のキャリア形成に対し、不安にならず落ち着いて“自己選択”“自己決定”できるような知識・情報とスキルを身に付けられるような授業展開を目指します。
選択してください	・昨年はコロナ禍により大学を通して企業訪問を実施できませんでしたが、今年度は実施でき学生からも好評でしたので、感染対策をした上で今後も企業訪問を実施していきます。 ・授業外の事前・事後学修の時間が平均より少ないので、企業研究の予習や復習など課題に対する考察時間を1.5時間程度/回になるように考慮していきます。 ・その他、学生にとって、よりよい講義になるように改善していきます。

令和4年度後期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
食材生産概論	<p>1. 本科目は新カリで読み替え科目がないため、再履修者へ別途開講する。生物の基本的な学修が苦手な学生が多いと考えられるため、基礎からわかりやすく学べるよう授業内容、資料を工夫する。</p> <p>2. 最後2回の講義担当回数を最大限に活用するため、学習者自身が調べ、考える必要のある事前課題を提案する。その学習に対する取り組みを講義時間に活かせるよう講義設計の工夫をする。その効果として、到達目標により高い水準を目指す学生を増やすことを改善目標とする。</p>
生物生産環境学	<ul style="list-style-type: none"> ・講義のスタイル 対面/オンラインどちらでも対応できるようtermsやその他のサービスを活用する。 ・講義内容の周知 当講義は、基礎から応用（具体例・先進事例）が含まれるため、ガイダンス時（第一回）に授業構成とそれぞれの関連性について明確に示す。 ・講義内容 先進事例の理解には、事前に現在の情報通信技術の理解も必要なため、基礎的な情報通信関連の内容を講義に追加する（新カリキュラムでは二年時に本講義理解のための講義が追加されている）。来年度以降は、“AI”関連の基礎技術を減らし、応用事例を増やし講義を進めたいと考えている。 ・事前事後学習に関して 本講義では、AI活用などの先端事例を参考としたグループワークを増やしたため、グループ間・グループ内での負荷に偏りがあった用に思えるため、個人レベルでの負荷がバランスするよう工夫する。
植物病理学	<p>植物病原である微生物学の部分から病害防除の行政的な内容まで学修内容は多岐にわたるため、用語など覚えることが多い。そのため、指定した教科書に加えて、要点をわかりやすくまとめた資料を用いて説明する。病気の症状などをイメージをしやすいように、病気になった植物の「現物」をさらに多く提示するように努める。今年度と同様に毎回の確認テストを実施し、随時理解度を確認する。履修の仕上げとなる「病害診断プレゼンテーション」を充実させるため、今年度と同程度の検体数（7検体）と発表時間、特に質疑応答の時間を十分に確保する。また同期開講科目である植物性食材生産実験実習Ⅰでは病害診断の実際（機器などを使用）を実施し、講義と実習の同時学修により、植物病理学の理解を深める。</p>
植物遺伝育種学	<p>授業評価アンケート、ありがとうございます。今後も充実した内容になるようプログラムを作ります。以下の皆さんからのコメントを転記します。</p> <p>【良かった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料が分かりやすく作られており良かった。 ・授業の内容から話が広がっていくのが楽しかった。 <p>【改善した方がよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを募集してほしい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挽回のチャンスはあると言っていたのがとても印象に残っていたが、期末試験がなくなり、50%がどこかに行ってしまったこと。その50%の配分を知りたかった。 <p>(改善点)</p> <p>→期末試験は15回目に実施しました。内容を分けて試験を行っていますので、試験の周知を徹底します。</p>
植物性食材生産学Ⅰ（食用作物）	<p>1. 事前・事後学習を行うべき内容とその成果を履修者にとって明確となるように計画する。本講義では、事前学習には指定教科書を用い、事後学習には講義内容のまとめと補足資料を用いていた。具体的改善点として、事前学習には指定教科書中の習得すべき知識をあらかじめ明示し、事後学習にてその知識の習得到達度を確保する資料へと変更する。変更した資料の学習成果を講義期間中に適宜、確認・評価する。</p> <p>2. できるだけ畑作物の実物を見られるようにしているが、今後も継続して行う。毎回、前回の授業内容の確認テストを行い、試験前も各作物で修得すべきポイントを示しているが、活用できていない学生もいるので、事後学修の課題を工夫し知識の定着を図りたい。</p>
植物性食材生産学Ⅱ（露地園芸）	<p>分かりやすかった、興味が持てた等という評価がある一方、範囲の広さから内容の理解が不徹底になる危険性も感じられた。適宜、小テストを行うなどして理解度のアップに努めたい。また、産地の事例紹介を交え、モチベーションのアップにも努めたい。</p>
植物性食材生産学Ⅲ（施設園芸）	<p>本科目では、花卉・果樹の基本的な植物生理と、それを基にした近年の応用事例などを扱っている。内容が多岐にわたるため、公務員試験の出題範囲を網羅するには時間が足りない状況である。そのため、必要なポイントを絞って講義し、自主学習で理解を深められるように教科書を使用する形をとっている。しかし、授業外の学習時間が足りていないことが今回のアンケートから示唆され、スピードが速く、授業についていけないとの意見もあった。これらを改善するために、今後は事前に講義の予習を行うよう促す工夫を行いたい。具体的には、事前に教科書の内容の指定して予習をするよう簡単な出題などをFormsやMoodleを用いて行う。</p>
動物繁殖学	<p>動物繁殖学を難しいと感じた学生も多かったかもしれません。私たちの普段の生活にも関係している部分も多くあるので、興味を持って聞いてください。わからないところは必ず復習しましょう。</p>
動物遺伝育種学	<p>難しいというコメントがあり、今後もできるだけ数式ベースではなく、図や対話型を通じて理解を深めてもらうように努める。遺伝理論と進化学の融合科目で、深い数理的な思考が求められる科目である一方で、公務員試験に多い割合で出題され、受験者間で差異のつく必須な科目である。暗記では決して対応できない性質の科目であり、大学レベルで学ぶ内容としては最適な科目である。</p>
動物性食材生産学Ⅰ（乳・卵）	<p>難易・進度の適切性も良好とのアンケート結果であることから、授業の内容を常にアップデートしわかりやすい授業を今後も展開してゆきます。</p>
動物性食材生産学Ⅱ（肉）	<p>検証：今年は対面であったが、自由記述による意見は1つもなかった。調査対象全授業のなかでの相対値（％）を見ると、50％を切っているのは、「設問4 目標到達できる内容」49.7％、「設問6 授業マナー遵守への配慮」48.6％の2項目のみであり、ほぼ平均に近い値であった。評価は昨年より高くなり、全学平均より高く推移している。したがって、授業の内容および進め方については問題はないと考える。</p> <p>改善点：「設問4 目標到達できる内容」が49.7％であるのに対し、「設問8 学生自身の授業目標到達度」は56.0％となっており、少し内容が難しかったのかもしれないので、難しそうな部分はより詳しく解説するように努める。</p>
動物栄養・飼料学	<p>授業の要点・内容の整理は良好であるが、難易・進度の適切性が平均的であるとのアンケート結果であることから難易度が少し高かったかも知れませんが、食産業学の中での大学レベルの学修内容としては必要な内容の授業です。事後学修をしっかりと実施してください。</p>

令和4年度後期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
生物生産環境学実験	全体を通して、年々受講生が増加してことに対して対応が遅れており、講義（実験）の進行と学生の内容理解に支障をきたしていると捉えている。 準備（実験環境のセットアップ）に時間を要したので、準備作業について動画での説明を実施する予定。 実験室後方の学生への対応のため、TAの導入を検討したい。
植物性食材生産実験実習Ⅰ	作物分野：事前・事後の課題について、作物栽培の意義や作業の意味を説明できるような課題を検討する。 野菜分野：本年は極端に発芽の悪い材料（レタス各種）であったため、まずは事前に材料の選定を吟味し、スムーズな展開となるように心がけたい。 植物病理分野：同期開講の「植物病理学」における目視観察による病害診断との連携によって、より病害への理解を深められるように、試料や手法の共有を図る。
動物性食材生産実験実習Ⅰ	より改善されたようで、大きな変更は予定していない。「水産のマボヤの解体に使用するホヤをもっと大きなサイズにしてください、小さすぎますアレは」というコメントを頂いたので、実験材料等についてはいずれも十分な吟味の上、適正なものを準備することに務めるが、生き物であり、環境にも影響するものなので、希望に添えない場合があると考えている。
植物生産基礎実験Ⅱ	今回の実習では、授業計画のわかりやすさの回答値が低いことがわかりました。履修生のみなさんに、実験の内容や日程が伝わらなかったかと思えます。今後は、各担当教員が実習初回時に実験予定や内容を丁寧に解説することにより、履修生が実験の進め方を理解できるようにします。
動物生産基礎実験Ⅱ	今後も感染対策をしっかりと行いながら、十分な教育成果を挙げられるよう工夫する。
分子生物学	講義に出席するだけでは不十分。事前事後学習により理解を深めること。参考図書も紹介しているので、自主的に学んでもらいたい。 ポイントとなる部分は小テストで確認しているにもかかわらず、しっかりと復習を行わない学生が多い。事後学習はしっかりと行ってもらいたい。
栄養科学	栄養科学は身近な食生活や健康に関わる内容であることから、毎回の「振り返り」で興味深い質問・意見が多く、それらに対する回答・コメントを次の講義資料に掲載し、一部は口頭でも解説することで充実した内容となり、履修学生からも好評であった。本科目は学修内容が多いため、最終回に重要ポイントをまとめたことで効率よく復習しやすくなり、「授業に関して良かった点」として挙げられた。また、スライド・資料の情報量も多くなりがちなので、より分かりやすくするよう常に改善を心がけており、今年度は文字色を減らしてマーカーで重要ポイントを示すことで、スライド・資料が以前より見やすくなったと思われる。また、要点は授業中に強調して解説しているが、さらに理解しやすくなるよう工夫したい。
企業倫理	授業で扱うトピックスと具体的事例を、普遍的な事例とともに各学生が直面する状況に合わせてアップデートしたわかりやすい形で講義することに務める。
食感性科学	学生評価によると、「知識や技術の習得・知的関心の喚起」・「授業計画のわかりやすさ」・「授業マナー遵守への配慮」・「目標到達できる内容」については、どれも全授業の平均を上回っている。よってこれらの項目については、次年度も同様の内容を行う予定である。一方で、「難易・進度の適切性」、「教材と説明の適切さ」、「学生自身の授業目標到達度」に関しては、全授業の平均値よりも低かった。また、「授業時間外の学習時間」についても平均値よりも低かった。次年度は、各回で課題を出すまたは中間レポートを課す等して、授業時間外の学習時間を増やしていきたい。
水資源利用学（食産）	【この授業に関して、良かった点】 ○今までの講義では扱われなかった、私たちを取り巻く世界と水の問題や水の利用を知ることができ、大変面白かった。また、ほかの生徒の発表を聞くという授業が刺激的でよかった。 ○教員の知識が豊富で、学生のレポート毎に補足をしてくれるので、とてもよかった。信頼できる講義 →反転学習の成果が現れていると考える。一方で、講義時間の制約上、準備した講義資料を解説する時間がとれないこともあった。改善した方が良い点のコメントでも、時間配分という意見があった。昨年からの改善点として、レクチャー部分のオンデマンド配信を行い対応したが、事前事後学習時間の負荷に繋がった可能性がある。今後検討したい。
動物発生工学	毎回授業初めの復習と、外部講師の講義はよかったとする意見がありました。今後とも継続していきたいと考えています。授業外学習時間が少ないことは、確認テストで満足してしまい、授業外学習がおろそかになっている可能性があります。しっかりと復習するよう、心がけて下さい。
水棲動物学	本講義は水産専門科目の最初の講義であり、基礎的な知識を中心に行っており、授業で取り扱う範囲も多く時間配分をもう少し改善していくとともに、公務員への志願者も近年多くなっているため、幅広く公務員試験対策にも繋がるような授業へ工夫していきたい。一方で、授業外の学習時間が大変少ないため、定期的な小テストを実施するなどし、時間外学習を促すように対策を行ってきたい。
水棲植物学	本学における水産系領域の発展を期待して水棲植物の生物学や養殖について情報を伝えている。学生の理解度は期待をかなり下回っているが、講義のレベルや内容を改善する必要は感じておらず、次年度も同じ内容で講義を行う予定である。なお、次年度から新カリが始まり、3年生と2年生への講義を前期・後期に分けて行うことになる。2年生については更に理解度は低くなる可能性はあるが、水棲植物に興味を持つ学生が出てくることを期待したい。
水産資源学（フード）	本授業は水産分野の授業として初めて受講する学生が半数を占める科目である一方で、水産分野に進学したい、より専門分野を学びたい学生も受講しているため、各学生にあった授業内容を行う必要がある。理解度向上に向け事前・事後学習の強化を図り、理解度を高めていきたい。
水産増殖学	旧カリでは4年生が対象なので、水産に興味を持っている学生の受講が目立った。そのため理解度が良く、講義の目標は達成されていた。次年度も旧カリのままなので、今年度と同様に授業を行いたいと考えている。
食品衛生学	当該科目は、食品の安全性に関わる技術的な事柄について学ぶ内容である。このため、食中毒菌の名称や生育条件など、基本的な事項についてはある程度暗記が必要である。例年、基本的な知識の定着を図るため、ミニテストを実施している。このことが事前・事後の学習を促すことにつながっている。次年度においても、例年の通り毎回の授業の中でミニテストを実施しながら知識の定着を図る。また、最新を話題などを調査するためグループワークによる調査も実施する。例年グループワークを実施しているが、その中で、グループの中心となる学生に作業が集中し、グループ内でのバランスが良くないことがある。また、各々分担して作業をするため、全体の把握ができていない例が多く、指導の中でこれら不具合を改善する。
食料経済論	この科目は、令和3年度までの入学者向けのカリキュラムでは、フードマネジメント学類のフードビジネスコースのみが必修で、フードサイエンスコースでは選択科目であったが、令和4年度からの入学者からの新カリキュラムではフードマネジメント学類の必修科目となる。また、開講時期が3年前期から2年前期に変更になるため、令和5年度の授業は令和3年度入学者と令和4年度入学者の合同での授業となる。授業の基本的な内容は令和4年度と大きく変わることはないが、履修者が増えることにより、大きな講義室での授業となるであろうから、今回、学生から「先生の声が小さくて何を言っているのか聞こえないことが多々あった。」という指摘があったことを踏まえて、今年度よりもスピーカーの音量を大きくするように注意したい。

令和4年度後期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
食品企業経営戦略論	<p>指定テキストを読むだけであれば1時間程度で予習が可能です。実際にはそれ以下しか予習が行われていません。予習の段階で内容をどこまで深められるか、使われている語句の正確な意味を理解し、使いこなせるかどうか、そして自分の身の周りの具体的企業活動の事例に適用できるかが問われる科目です。経済学と経営学の違いを1/2年のうちにしっかりと理解した上で受講して下さい。</p> <p>授業の最初の30分程度は学生からの前回授業に対するコメントや質問に答える形で「講義内復習」を実施していますが、そこで述べる教員のコメントは良いモノばかりではないことを理解して頂きたいと思います。場合によっては出された意見に対する厳しい批判という形を取ることもあります。自らの意見を好意的に批判されることも少しずつ慣れていってほしいと思います。</p> <p>基本はテキストです。教員が提示するPPTはあくまでも教員のまとめであり、皆さんが行う勉強はテキストを基本にすることだとしてしっかりと理解して下さい。そうしないとお金を出してテキストを買う意味が全くなりません。PPTを書き写すことは学ぶことではありません。</p> <p>事前にしっかりと予習してきた学生のコメントと何も準備せずにそのまま授業を聞いた学生のコメントでは内容やレベルに大きな違いがありますので、2023年度はそこを踏まえて対応したいと思います。</p>
フードシステム調査演習	<p>演習授業なので、演習として学生自身が手を動かして実践し、教員はそれをサポートするので、対面での実施は非常に効果的である。阿部助教が質的研究法、滝口助教がアンケート調査法については評価も高い。私（森田）の計量経済学の部分は、統計書の見方、計量経済学・統計学の手法の応用、Excelの発展的分析の3つが合わさっているので、非常に難しい演習にならざるをえないが、フードシステムの基本を知る上で欠くべからざる部分であり、難しいことを承知で実施している。今期は、Excelの転記ミスで、資料の全体的な修正を行わなくてはならず、初学者には困難な授業にもかかわらずさらに混乱があった。今後資料を作成するに当たって注意深く行う必要がある。</p>
フードサービス産業論演習	<p>到達目標に達していないと感じた受講者が若干いた。授業時間中に掲げている到達目標の全てを達成することは難しく、学生自身の事前・事後学習によって補完する必要があったが、そこが足りていなかったと思われる。事前・事後学修について、専門誌や新聞、各社の公式ウェブサイトの情報を各自で必要に応じて調べることを想定していたが、アンケートでの実際の学修にかけた時間をみると、不足していることがわかった。これは、自主性に任せることの限界であると感じている。そこで、来年度以降は、毎回の授業でより具体的な学修課題を出し、授業内で学修内容を確認する形をとっていききたい。</p> <p>また、外部講師の評判がよかったので、これについては継続していききたい。</p>
フードシステム解析演習	<p>計量経済学、オペレーションリサーチ、多変量解析等は、難しく感じるかもしれませんが、実際にデータを手にとって、いろいろと分析してみると楽しいものです。理論と実践をいったり来たりしながら、フードシステムに関わることに興味を広げてほしいと思います。分析手法の理論に加えて、実社会でどのようにデータが使われているか分かるように演習の中身を改善していききたいと思います。</p>
食品衛生学実験	<p>本実験の内容に関しては、今年度参加した学生の積極的な参加と十分な学習により充実したものとなった。参加した学生には、今後の学習に関しても本実験科目と同様に積極的な取り組みを続けてもらいたい。実験の組み立てとしては、食品製造の現場で実施されている内容をコンパクトにまとめたものとなり、この内容を十分に理解した上で、実験の望んだのであれば、実際の現場においても必ず役に立つ内容となっている。次年度以降も基本的にこの内容で実験を進める。ただし、一部の行程で、ガラス器具が足りない、損傷が激しく使用に耐えない、などの不都合が発生したので、この部分に関しては、事前に十分に整備することとする。また、マニュアル類についても訂正箇所などがあったため、新たに更新する。</p>
食品貯蔵・流通技術論	<p>到達目標やシラバスは概ね問題ないと考えている。</p> <p>目標到達のため、定着のための学習時間を増やす必要があると考えている。事前、事後の学習、準備が必要となる講義の実施（開始時の問いかけや討論）、事後の定着の時間を設けたい。</p>
ローカルフードシステム論	<p>県庁職員の講義が好評だったようだ。課題については適切な時期に課すよう努める。今後もこのような機会を設けて実施していききたい。また、課題については適切な時期に課すよう努める。</p>
ライフステージ栄養学	<p>本年度の授業は第1回目を除き対面での実施となった。毎回、出席と確認と共に質問や感想を記入して次の講義に活かすよう心掛けた。授業アンケート結果によれば、授業の内容、説明、難易度、目標達成度など平均を上回っていたことは良かった。一方、授業マナー遵守への配慮が平均を下回っていたことから、授業中の私語、出入り含めて次年度は厳しく指導していききたい。また、授業外の学習時間については、昨年同様に就職活動や卒業研究も重なったことから低調であったことは残念である。次年度は、授業外学習が進められるよう毎回小テストなどの実施して、よりきめ細やかな講義として行きたい。</p>
食産業・政策史	<p>本講義は就活期間と全く重なっているため、出席できている学生も連続して受講できる状況ではないのが残念である。ただし少人数講義なので、質疑など対面でのアクティブ・ラーニングを積極的にとり入れた授業の進行ができた。</p> <p>大学で歴史を学ぶことの意義は、出来事の羅列や物語にあるのではなく、人と社会を動かす「力」を理解することなので、その大きな「力」が理解できるようになることを目標としている。レポート課題は、ネットなどを調べれば一つのことしか出てこないが、実はそれにはいくつもの考え方があって、自分で考えなければ書けないものを出題することになっている。</p>
食品物理化学	<p>新カリキュラムにより、「食品化学工学」に移行することとしており、物理に限定せず講義を行う予定である。受験科目に物理を選択しない学生が増えており、また、文系学生も含まれていることから、難易度が高いことは当初から想定しており、丁寧な解説を行っているところである。一方、物理を得意とすると思われる学生からは昨年度に評価の高いコメントを受けており、「わかりやすく」かつ「やりがい」のある講義を目指しているところである。特に、微分・積分などについては、実際に計算する時の簡易な方法を紹介することで理解しやすくなっていると考えている。</p> <p>昨年のアンケートと比べると、改善の点が今年は無かったが、反応が薄いという結果とも受け止められる。改善を止めること無く、評価の高い授業科目を目指す。</p> <p>身近な食品が、実際はどのような理論とそれに伴う現象で製造されているか、または開発に関係するかは学生にとって関心の高いところと考え、また他の科目には無いオリジナルな分野と考えることから、学生の関心が高くなるようなトピックを含めて講義を行う。</p>
【R4年度以降入学生対象】食産業学概論	<p>単位を取得できなかった履修生については、次年度の開講時に期末試験においては記述による解答を確実なものとするよう再度指導します。</p>
【R4年度以降入学生対象】食材生産・加工実習Ⅰ	<p>学生のほとんどが食材生産の体験が初めてであるため、かなり興味、関心を持って取り組めたようである。早めの実習の事前連絡やレポート評価基準の明確化についての要望があり、今後、対応したい。</p> <p>屋外で行う作物栽培はどうしても天候に影響される場合があるので、あらかじめ雨天時にリモート授業で採用した動画等の教材を用いた学習を取り入れたり、作物栽培方法・管理方法について学生同士で理解を深める時間を設けるなどを検討する。</p>